

令和元年度  
第2回 三重県河川整備計画  
流域委員会

一級河川宮川水系（指定区間）

令和元年9月2日





## 目次

- 1 . これまでの経緯
- 2 . 前回流域委員会での意見・回答
- 3 . 住民アンケート調査結果
- 4 . 宮川流域の概要
- 5 . 汁谷川流域の概要
- 6 . 河川整備基本方針の概要
- 7 . 河川整備計画（原案）の概要
- 8 . 今後の予定





# 1. これまでの経緯

# これまでの経緯



昭和49年7月7日洪水  
(七夕災害)

・昭和50年4月 宮川一級河川指定

平成16年9月  
台風第21号

・平成16年度～「宮川右岸緊急対策」  
・平成18年度～「宮川床上浸水対策特別緊急事業」  
(国土交通省)

・宮川雨量観測所で最大時間雨量  
119mm、総雨量753mmを記録  
・宮川本川の基準地点の岩出で観測  
開始後最高水位10.16mを記録  
・中島、大倉地区の無堤地区で越水  
(宮川右岸)

平成23年9月  
台風第12号

・宮川の最高水位が計画高水位を約  
50cm上回り、基準地点岩出で観測史  
上最大流量の約8,200m<sup>3</sup>/sを観測

平成29年10月  
台風第21号

・七夕災害の総雨量496mmを上回る  
**総雨量584mm(観測史上最大)**  
・伊勢市内では満潮と台風による  
高潮、大雨が同時に発生  
・伊勢市を流れる勢田川、**桧尻川、  
汁谷川流域で広範囲で浸水被害が発生**

## 三重県

## ：宮川水系(指定区間) 河川整備計画

平成21年8月 第1回流域委員会

・流域の概要  
・主要洪水の概要  
・現行計画と整備状況

平成21年11月 第2回流域委員会

・現状と課題  
・既定計画の概要  
・整備計画(案)の考え方

平成22年2月 第3回流域委員会

・整備計画(案)の概要

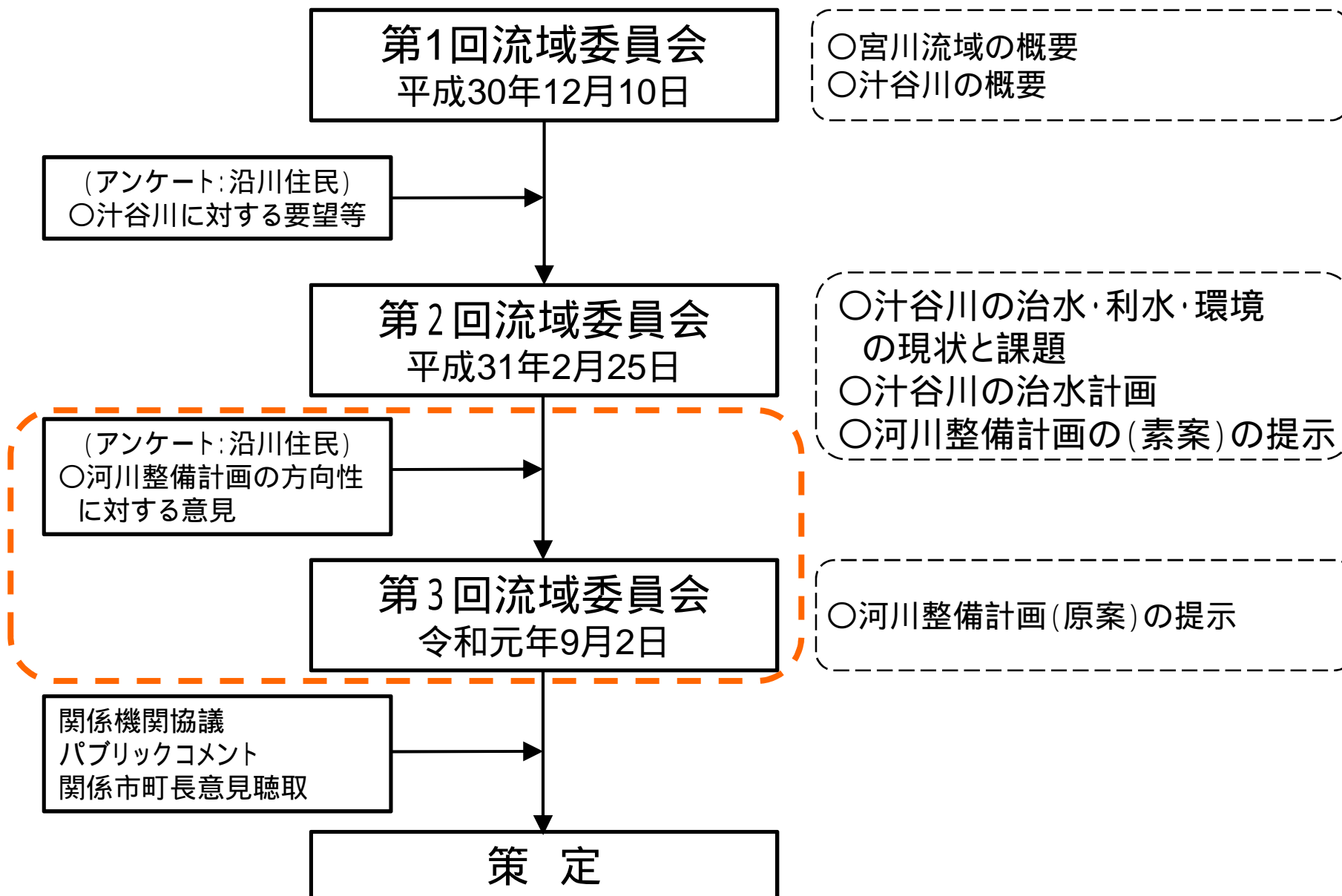
平成29年3月 河川整備計画の策定

整備計画の対象河川  
・五十鈴川  
・大内山川  
・桧尻川 (3川)

河川整備計画の見直し

・平成29年10月洪水で伊勢市全域で多大な浸水被害が発生  
・現行の河川整備計画**対象河川以外の河川：汁谷川**  
において**顕著な浸水被害が発生**  
・対象河川も含め**現行の河川整備計画の見直しが必要**

# これまでの経緯





---

## 2 . 前回の流域委員会での 意見・回答

# 第2回流域委員会での意見・回答



□ 平成31年2月25日に第2回流域委員会を開催

日時:平成31年2月25日 14:30～16:15

場所:JA三重健保会館 3階大研修室

Q1 宮川水系全体の環境についても、現状だけでなく、課題を記載してほしい。

A1 宮川水系全体の環境の現状と課題について、平成28年3月の委員会資料を参考に、以下の内容について資料に追記した。

項目	現状	課題
環境	<ul style="list-style-type: none"><li>● 宮川水系は、多くの支川からなり、渓谷から低平地を流れる都市河川まで、様々な環境が見られる。</li><li>● 全般的に良好な水質であるが、都市域を流れる勢田川や桧尻川では水質汚濁が進んでいる。</li><li>● 宮川水系は流域の大半が自然公園に指定され良好な自然環境を有しており、天然記念物のカモシカ、ネコギギ、オオダイガハラサンショウウオも生息する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 各河川の特徴を踏まえた、河川整備が必要。</li><li>● 下水道整備と連携し水質浄化を行う必要がある。</li><li>● 良好な自然環境の保全、生態系に配慮した河道改修が必要。</li></ul>

## 第2回流域委員会での意見・回答



### □ 平成31年2月25日に第2回流域委員会を開催

日時:平成31年2月25日 14:30～16:15

場所:JA三重健保会館 3階大研修室

Q2 汁谷川はH29.10洪水で床上浸水が発生したため、整備計画に追加しているが、今後、超過洪水で床上浸水が発生した場合、すべての河川が整備計画の対象となるのか。

A2 本県の河川整備計画策定の対象となる河川は、河川の重要度や緊急性、効率性等の観点から総合的に考慮して決定しています。

汁谷川については、H29.10洪水による床上浸水被害等が生じたことによる緊急性や伊勢市と事業連携を行うことによる効率性等を考慮し、河川整備計画策定の対象となっています。

# 第2回流域委員会での意見・回答



- 平成31年2月25日に第2回流域委員会を開催

日時:平成31年2月25日 14:30～16:15

場所:JA三重健保会館 3階大研修室

Q3 H29.10洪水の浸水戸数が整合していない。伊勢市全体と汁谷川流域で、分かりやすく記載すること。

A3 資料を再確認し、以下の通り修正させていただいた。

年月日 要因	対象区域	対象河川	被害概要 (浸水戸数)	出典(根拠)
平成29年 10月21日 台風 第21号	伊勢市全体	勢田川、桧尻川 汁谷川	床下浸水:670戸 床上浸水:409戸 (合計:1079戸)	勢田川流域等浸水対策実 行計画(H30.6.19)
	汁谷川流域	汁谷川	床下浸水:48戸 床上浸水:157戸 (合計:205戸)	H29水害統計調査調査票 (三重県提供資料)

# 第2回流域委員会での意見・回答



## □ 平成31年2月25日に第2回流域委員会を開催

日時:平成31年2月25日 14:30～16:15

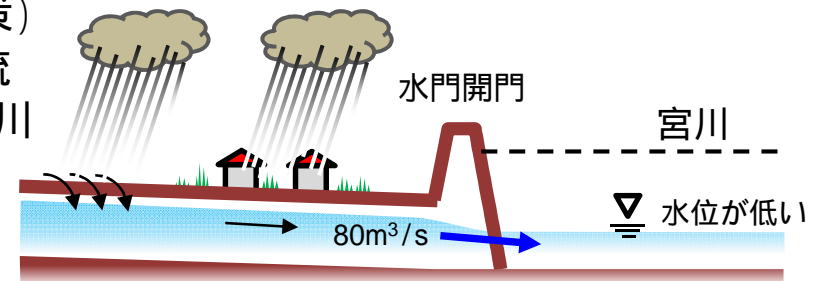
場所:JA三重健保会館 3階大研修室

Q4 汁谷川の外水氾濫対策と宮川に対する内水氾濫対策を分けて計画しているが、一般の方にも分かりやすい資料作成をしてもらいたい

A4 宮川の水位が汁谷川より低く水門が開いている場合と宮川の水位が汁谷川より高く水門が閉鎖している場合に分け汁谷川の氾濫対策を説明する

宮川の水位が汁谷川より低い場合の対策(外水氾濫対策)

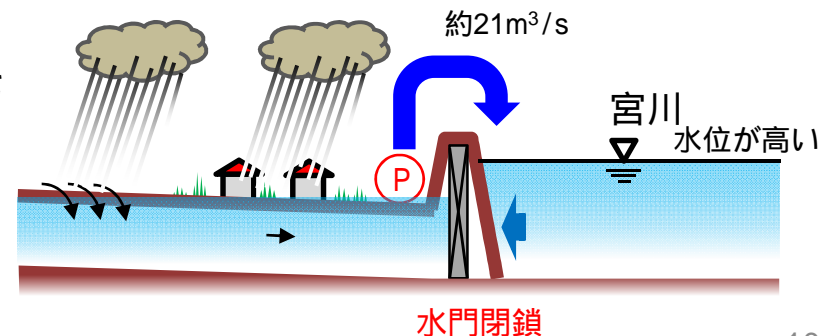
- 水門が開いており宮川へ自然排水できるため、汁谷川流域に降った雨が溢れずに宮川に排水できるように、汁谷川の流下断面を確保する。
- 汁谷川の堤防高が低い部分に特殊堤を整備することで、流下能力を $80\text{m}^3/\text{s}$ に向上させる。



宮川の水位が汁谷川より高い場合の対策

(宮川に対する内水氾濫対策)

- 宮川の洪水が汁谷川に逆流することを防ぐため、水門を閉鎖して流域に降った雨を河道内に貯留しつつ流末にある排水ポンプで宮川に排水する。
- 約 $8\text{m}^3/\text{s}$ の排水ポンプを新設し、既存のポンプと合わせて約 $21\text{m}^3/\text{s}$ 排水することで、河道内に貯留した水位を下げ、内水氾濫被害を軽減する。







### 3. 住民アンケート調査結果

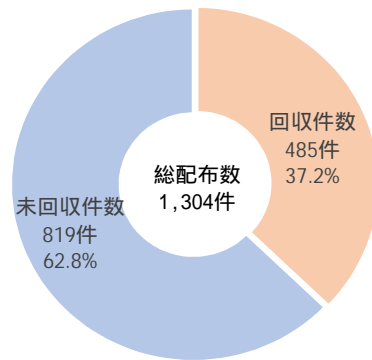
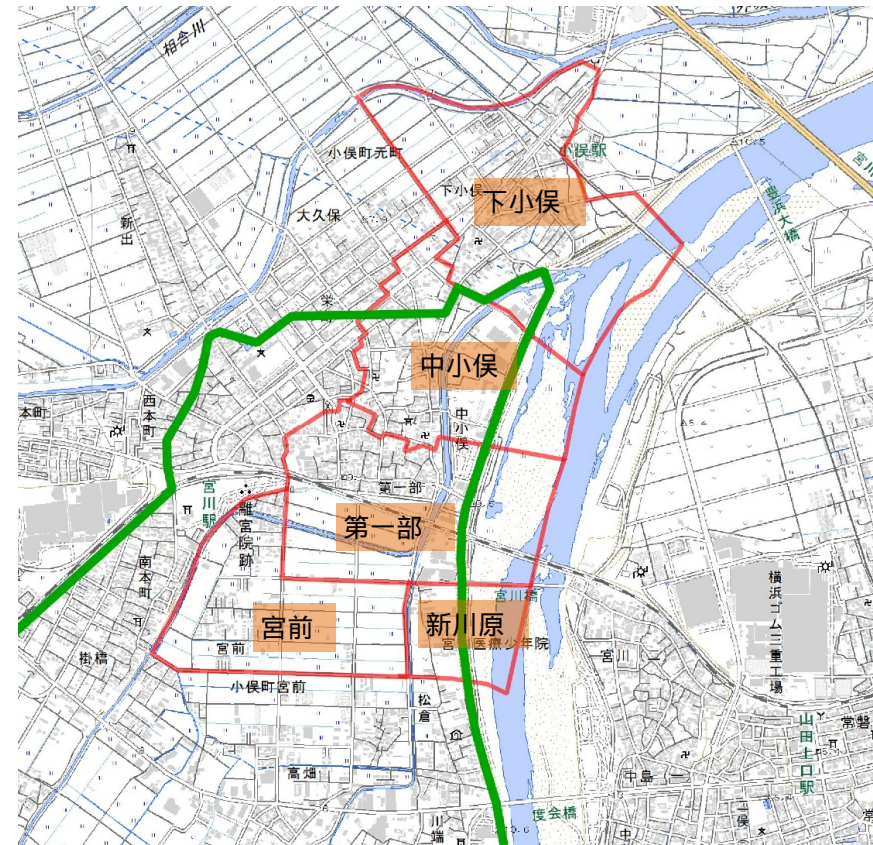
# アンケート調査の方法・配布範囲



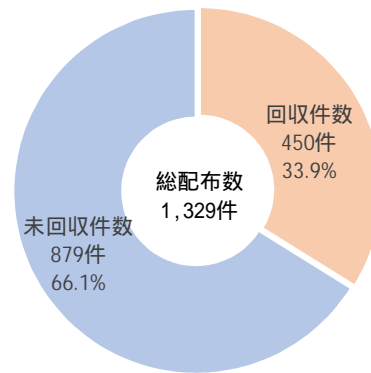
□ 調査方法: 汁谷川指定区間の沿川全世帯へ伊勢市広報誌に同封して配布

汁谷川沿川アンケート配布数

地区名	第1回	第2回
下小俣	450	475
中小俣	275	275
第一部	280	280
宮前	264	264
新川原	35	35
合計	1304	1329



第1回汁谷川沿川アンケート  
配布数・回収結果



第2回汁谷川沿川アンケート  
配布数・回収結果

汁谷川アンケート 配布範囲

# 第1回アンケート調査結果



- 調査目的: 汁谷川に対する住民意識とニーズの把握
- 調査期間: 平成30年8月20日 ~ 平成30年9月18日

水害について	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 水害（洪水）に対して不安な川であると回答した人が約6割。</li><li>◆ 不安に思う理由として、川の近くに住んでいるためと回答した人が約4割、過去に洪水被害にあったためと回答した人が約2割となっている。</li></ul>
水質について	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 水がきれいと感じる人は3割弱、汚いと感じる人は過半数を占めている。</li><li>◆ 上流に位置する宮前地区は、下流側に比べてきれいと感じる人の割合が高くなっている。</li></ul>
自然・風景について	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 自然が豊かと回答した人は約3割、とぼしいと回答した人は5割弱。</li><li>◆ 自然が豊かな理由として、鳥類や川の中の植生が豊かであることがあげられている。</li><li>◆ 景観については、良好と回答した人が約3割、悪いと回答した人が過半数を占めている。</li><li>◆ 景観が良好な理由として、水の流れがきれい、水辺の植生がきれい、身近な生活との調和がいいことがあげられている。</li></ul>
利用について	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ よく行く、時々行くが約5割を占めている。</li><li>◆ 訪れる目的で最も多いのは散策で、次いで水量が多いときに様子を見る、自然観察となっている。</li></ul>
将来像について	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 回答者の約9割が、水害から人や家を守るための整備を望んでいる。</li><li>◆ 次いで、約5割が川の水質保護・改善を、約4割が自然環境の保護となっている。</li></ul>

# 第2回アンケート調査結果



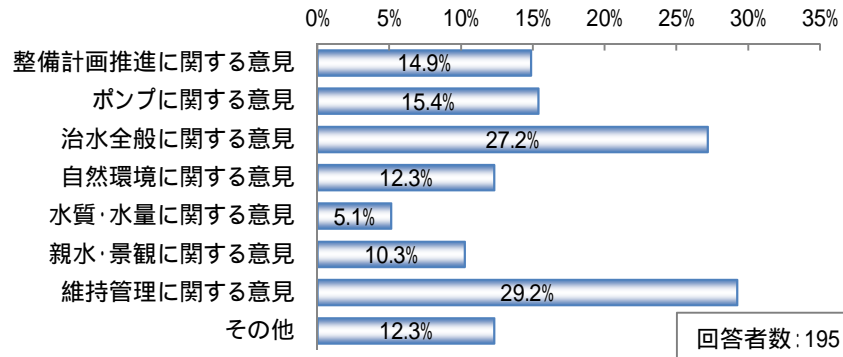
- 調査目的: 汁谷川の整備方針に関する意見の把握
- 調査期間: 令和元年7月8日～令和元年7月29日

<h3>河川整備の方針について</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 整備方針として「ポンプ増設および堤防嵩上げを総合的に進めてほしい」が約66%、「ポンプ増設を優先的に進めてほしい」が約24%となっている。</li> <li>◆ 全体では9割の人が汁谷川のポンプ増設を望んでいる。（一項目選択）</li> </ul> <table border="1"> <caption>河川整備の方針に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>整備方針</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ポンプ増設および堤防嵩上げを総合的に進めてほしい</td> <td>66.1</td> </tr> <tr> <td>ポンプ増設を優先的に進めてほしい</td> <td>23.6</td> </tr> <tr> <td>堤防嵩上げを優先的に進めてほしい</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.1</td> </tr> </tbody> </table>	整備方針	割合 (%)	ポンプ増設および堤防嵩上げを総合的に進めてほしい	66.1	ポンプ増設を優先的に進めてほしい	23.6	堤防嵩上げを優先的に進めてほしい	6.4	その他	1.1				
整備方針	割合 (%)														
ポンプ増設および堤防嵩上げを総合的に進めてほしい	66.1														
ポンプ増設を優先的に進めてほしい	23.6														
堤防嵩上げを優先的に進めてほしい	6.4														
その他	1.1														
<h3>環境等について望むこと</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 汁谷川の環境等に関する要望では、「動植物の良好な環境保全」「散歩や水遊びなどによる利用」が5割以上となっている。次いで「水質を改善してほしい」が、約4割となっている。（複数選択可）</li> </ul> <table border="1"> <caption>環境等に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>要望内容</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動植物にとって良好な環境を保全してほしい</td> <td>57.6</td> </tr> <tr> <td>散歩や水遊びなどで汁谷川を楽しむことができるようにしてほしい</td> <td>55.8</td> </tr> <tr> <td>水質を改善してほしい</td> <td>39.9</td> </tr> <tr> <td>景観を改善してほしい</td> <td>35.4</td> </tr> <tr> <td>今のままでよい</td> <td>6.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6.3</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">問5に回答した446人のうち、各項目を選択した割合を示す</p>	要望内容	割合 (%)	動植物にとって良好な環境を保全してほしい	57.6	散歩や水遊びなどで汁谷川を楽しむことができるようにしてほしい	55.8	水質を改善してほしい	39.9	景観を改善してほしい	35.4	今のままでよい	6.7	その他	6.3
要望内容	割合 (%)														
動植物にとって良好な環境を保全してほしい	57.6														
散歩や水遊びなどで汁谷川を楽しむことができるようにしてほしい	55.8														
水質を改善してほしい	39.9														
景観を改善してほしい	35.4														
今のままでよい	6.7														
その他	6.3														

# 第2回アンケート調査結果（自由意見）



□ 意見の多かった項目は「治水全般に関する意見」と「維持管理に関する意見」であった。整備推進やポンプに関する意見、自然環境や親水に関する意見等、幅広く意見があった。



## 整備計画推進に関する意見（抜粋）

- ・近年、多発しているゲリラ豪雨の被害がこの地区にも身近にあると思います。少しでも早急に進めてもらいたいです。
- ・自然災害はいつ起こるかわからないですが、ポンプ増設や堤防嵩上げなどの対策を早急に進めて頂き、安全で快適に暮らせる様に願っています。

## ポンプに関する意見（抜粋）

- ・ポンプ増設し増水時の維持管理を徹底してほしい。
- ・ポンプ増強は当然と思いますが、ポンプの設置位置の「嵩上げ」が必要だと思います。

## 治水全般に関する意見（抜粋）

- ・住んでいて安心な町、自然災害が起こらないように対策してほしい
- ・近年、激しい雨が降るようになったので、今までの考え方ではカバーできない点多々あると思いますが、安全に暮らせるように整備して下さい。

## 自然環境・水質・水量に関する意見（抜粋）

- ・整備は最小限にしてアユやタナゴが生息できる環境であり続けてほしいです。
- ・災害の防止とともに、自然を生かせるような対策をお願いしたいです。
- ・以前は子供達が川遊びできたのに、今は雑草が生えたり川の水が濁ったり汚れたりしているので、水質を良くしてほしい。

## 親水・景観に関する意見（抜粋）

- ・昔は水遊びなどをしていた思い出の川なので景観を良くし、散歩や水遊びの出来る川にして頂きたいです。その後は地域で保全を行えたらと思います。
- ・汁谷川河畔は市民の憩いの場であり、散歩、ウォーキング等で多くの方が利用しており、堤防河川敷等整備保存し美観の向上を希望します。

## 維持管理に関する意見（抜粋）

- ・堤防の草刈、住民が年に日を決め何回か掃除をする様にしてはどうかと思う。
- ・河床の砂や土（盛土を含む）を取り除くと、もっと川流や景観が良くなると思う。逐次進めてほしい。
- ・汁谷川周辺の住民を中心とした河川の美化を行うボランティア団体を立ち上げて、河川と周辺の美化活動をしたら良いと思います。



## 4. 宮川流域の概要

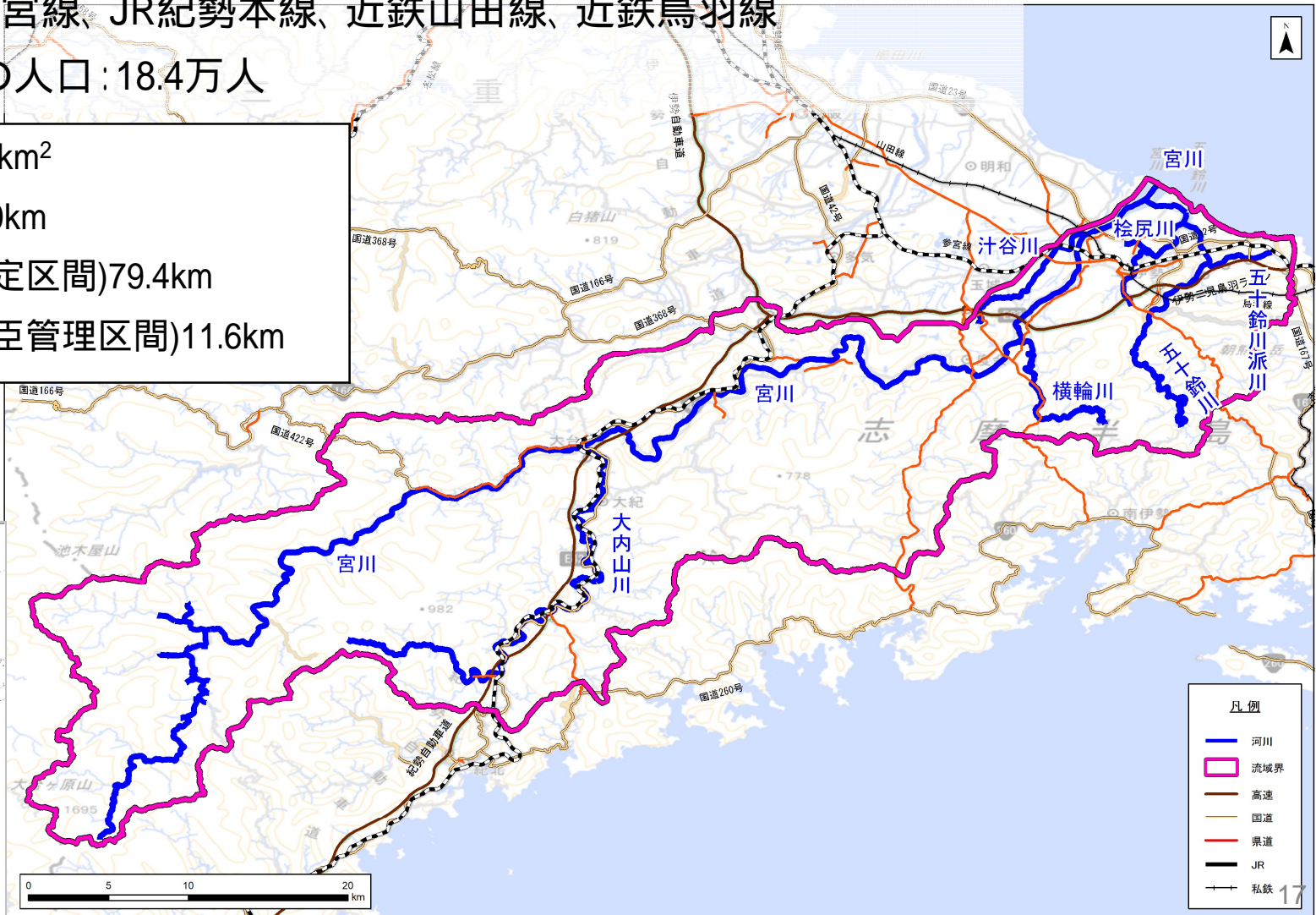


# 宮川流域の概要



- 関係市町：伊勢市、多気町、大台町、玉城町、度会町、大紀町
- 主要道路：紀勢自動車道、伊勢自動車道、国道23号、国道42号
- 鉄道：JR参宮線、JR紀勢本線、近鉄山田線、近鉄鳥羽線
- 関係市町の人口：18.4万人

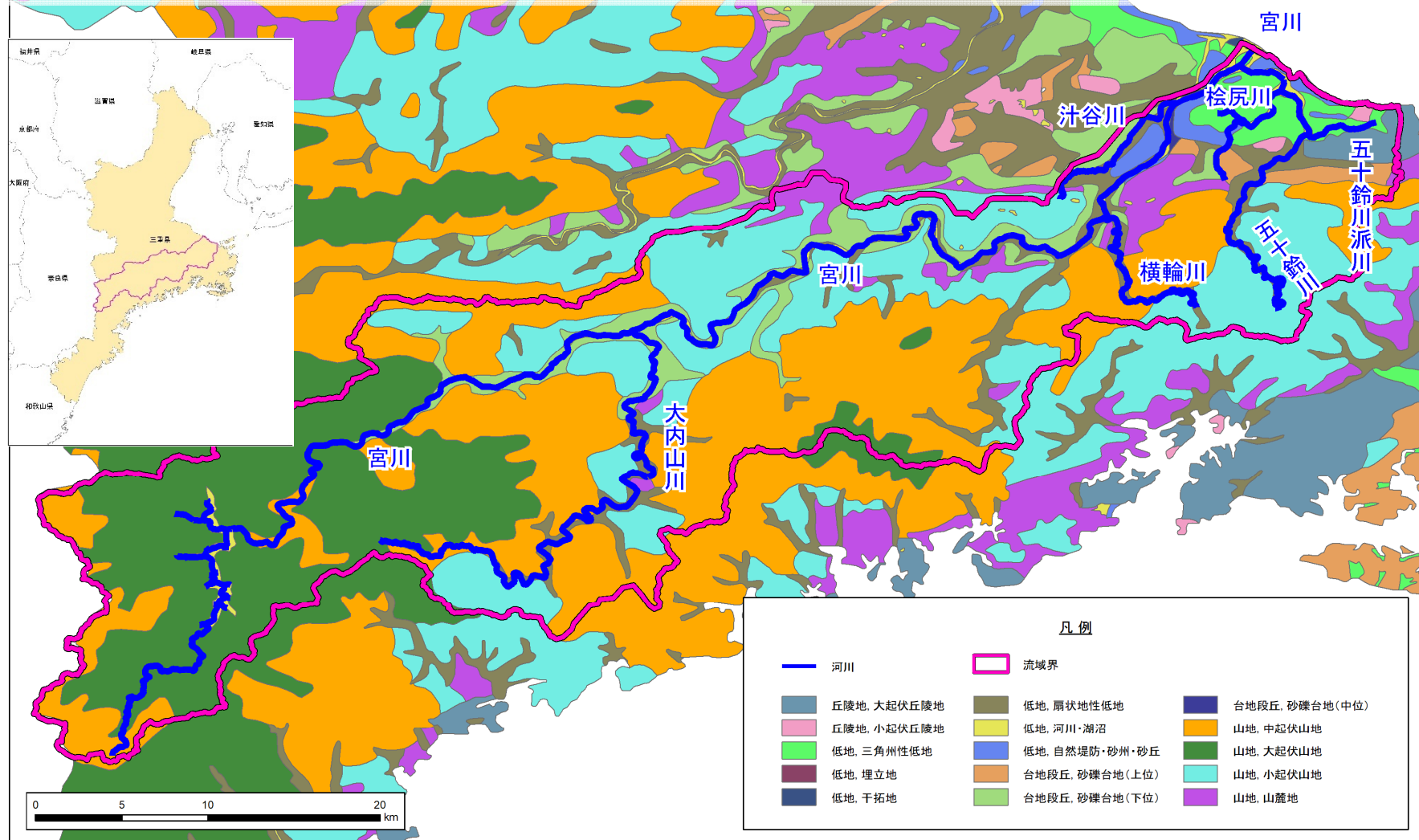
流域面積 920km<sup>2</sup>  
流路延長 (宮川)  
(指定区間)79.4km  
(大臣管理区間)11.6km



# 地形



- 宮川流域は、西から北東に延びた長方形をなし概ね紀伊山地によって占められている。下流域は狭い範囲に扇状地を形成しJR線宮川鉄橋付近から三角州を形成して流下し、河口部にはデルタ地帯が広がっている。

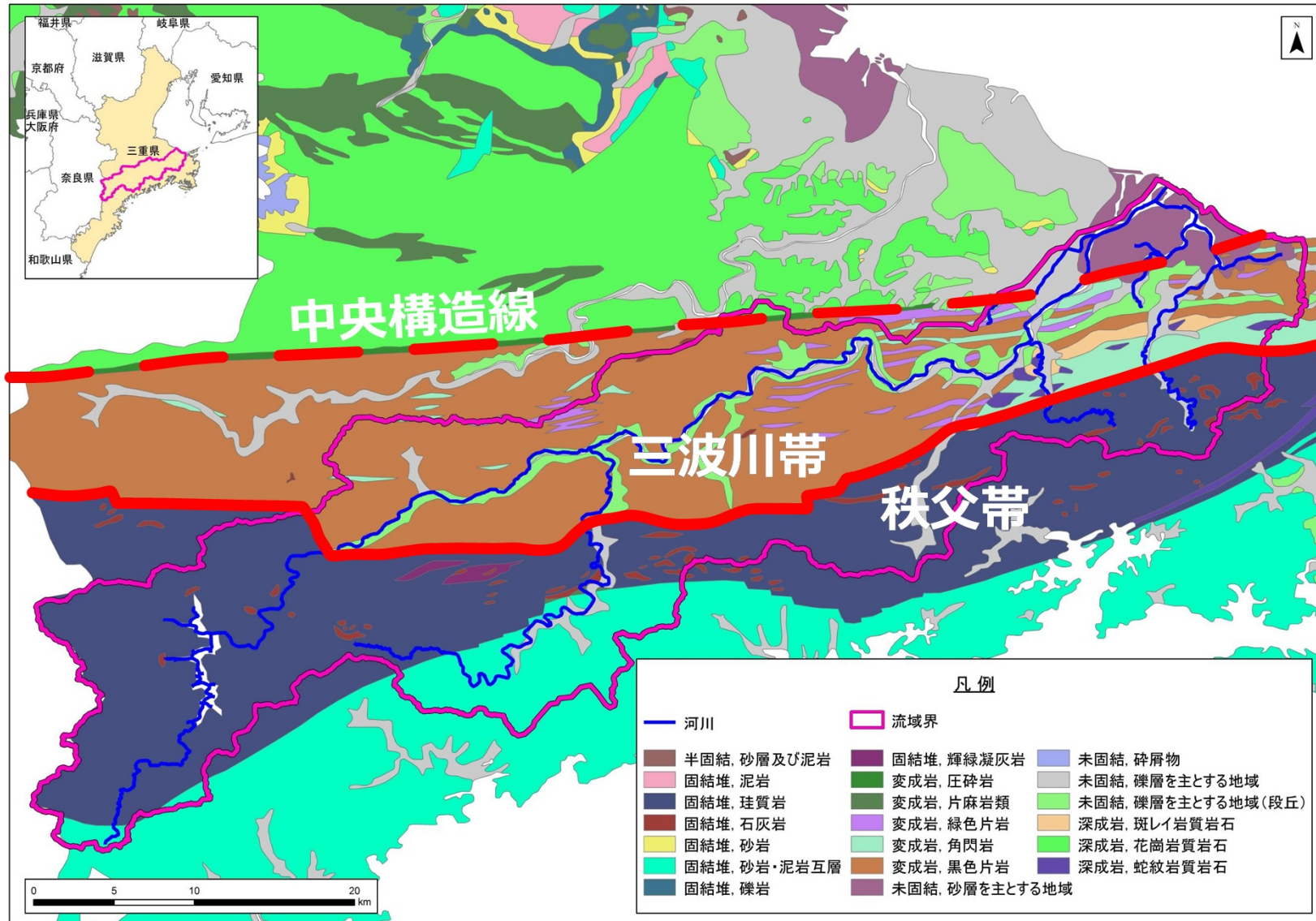




# 地質



- 宮川流域は、伊勢湾に面する平野部を除けば古い時代の地層からなる。流域の大部分は中・古生代の三波川帯及び秩父帯に属し北側と南側で分けられる。

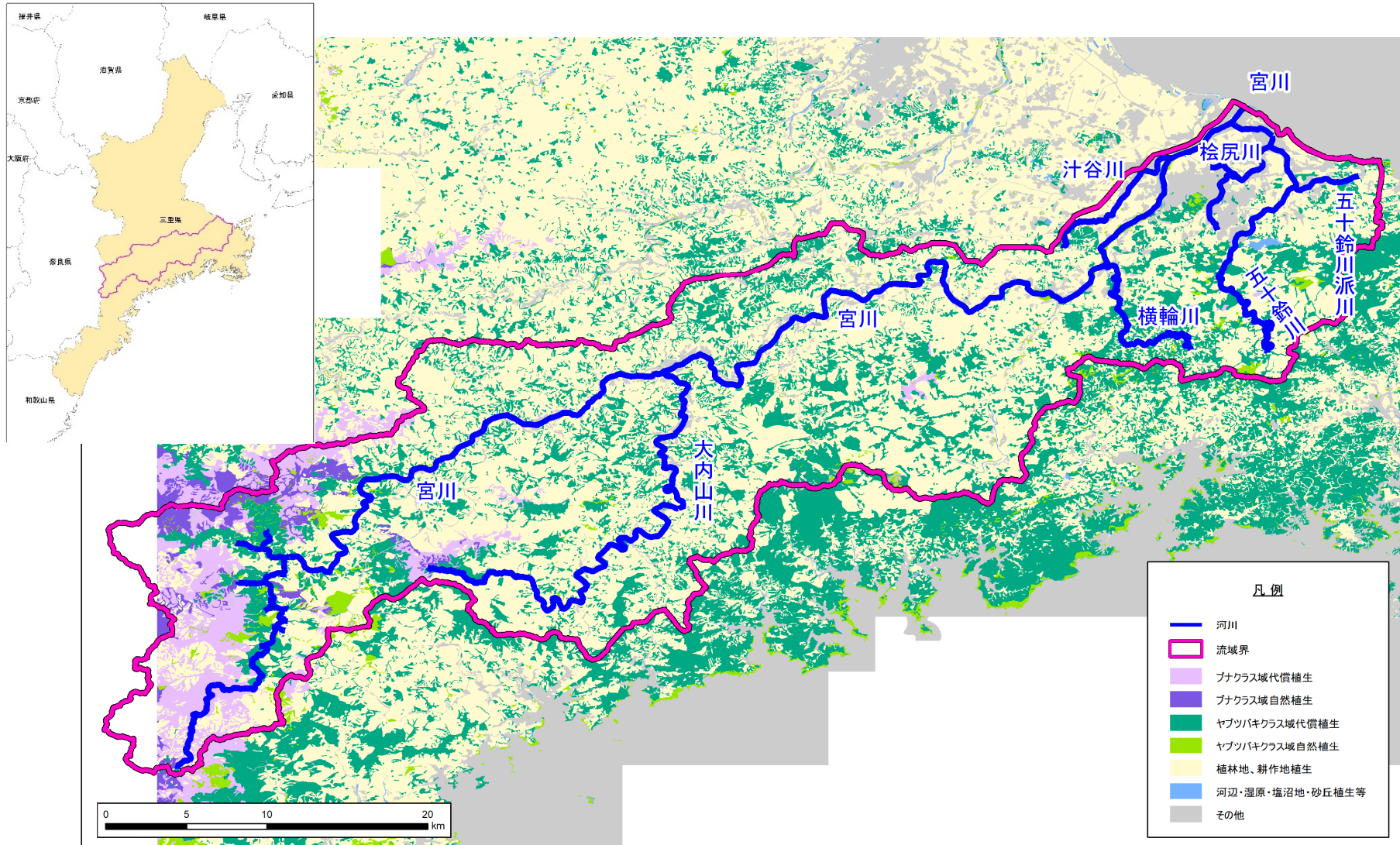


出典：「国土地理院 土地分類調査」

# 植生



- 流域の植生の大部分は、ヤブツバキクラスの代償植生や植林地、耕作地で大半が人間活動の影響を受けている。



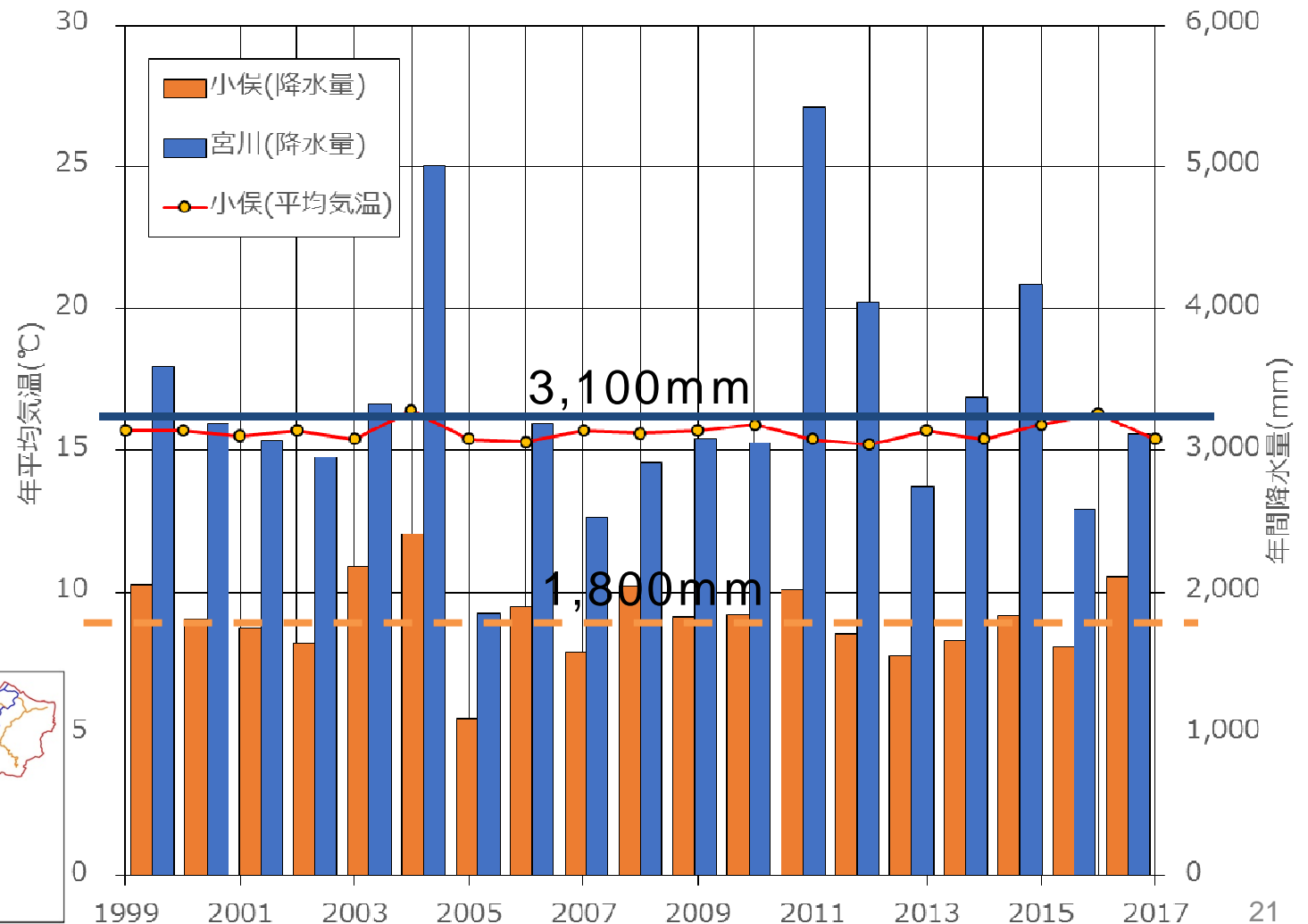
# 気候



- 流域の近年の年平均気温は15 程度
- 平均年間降水量は上流部3,100mm程度、下流部1,800mm程度で、全国平均1,690mm(「平成27年版日本の水資源について」)を上回る。

月別平均雨量・気温

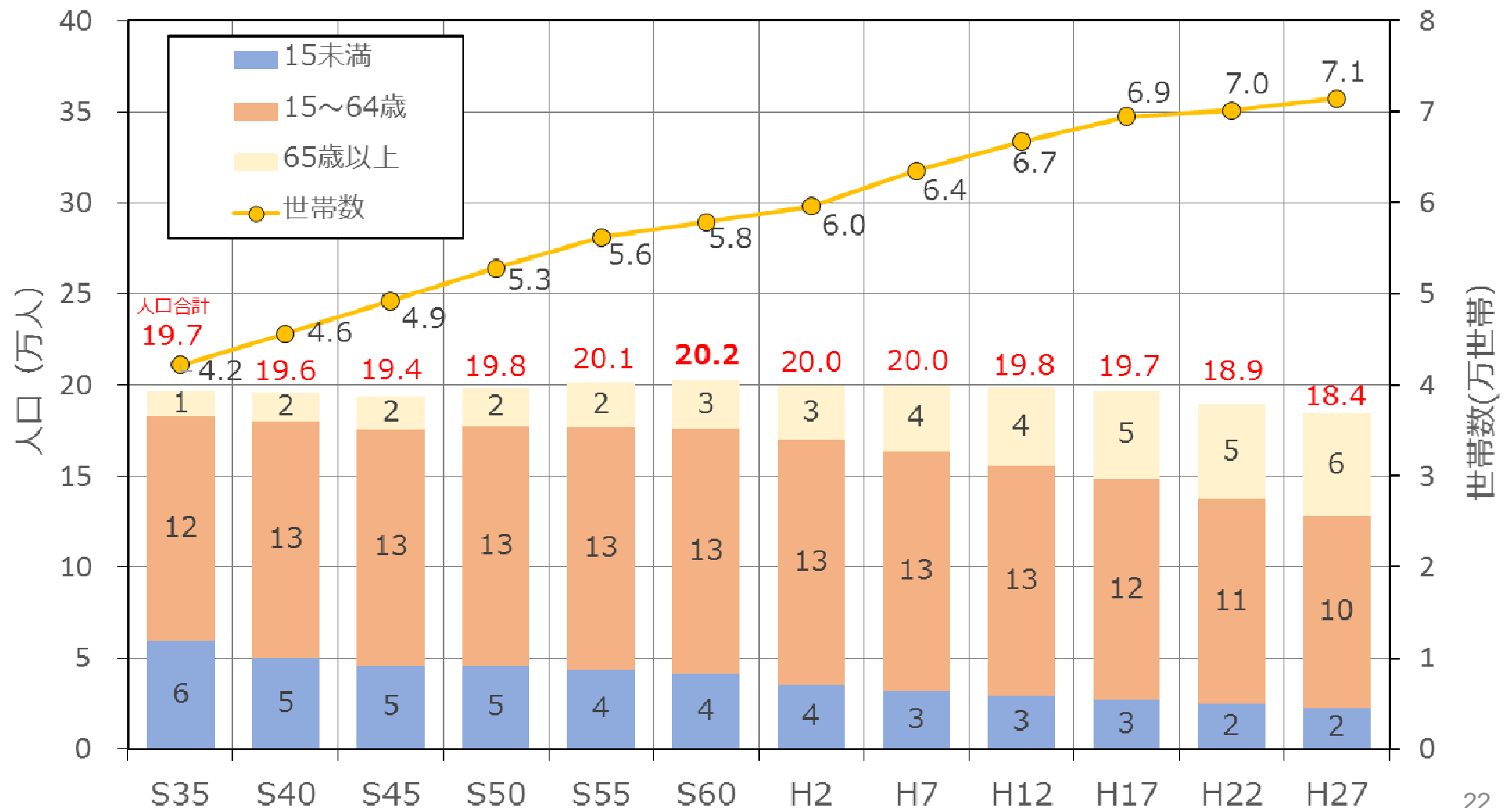
月	平均雨量 (mm)		小俣平均気温 (°C)
	小俣	宮川	
1月	57	73	5
2月	70	95	5
3月	127	182	8
4月	137	222	14
5月	194	285	18
6月	217	330	22
7月	176	344	26
8月	181	498	27
9月	315	571	23
10月	196	301	17
11月	112	166	12
12月	55	81	7
平均	1838	3148	15



# 人口・世帯数



- 宮川流域の関係6市町(伊勢市、多気町、大台町、玉城町、度会町、大紀町)の総人口・総世帯数は、平成27年時点で18.4万人・7.1万世帯
- 人口は、昭和60年をピークに減少傾向、H27年時点で65歳人口が約1/3

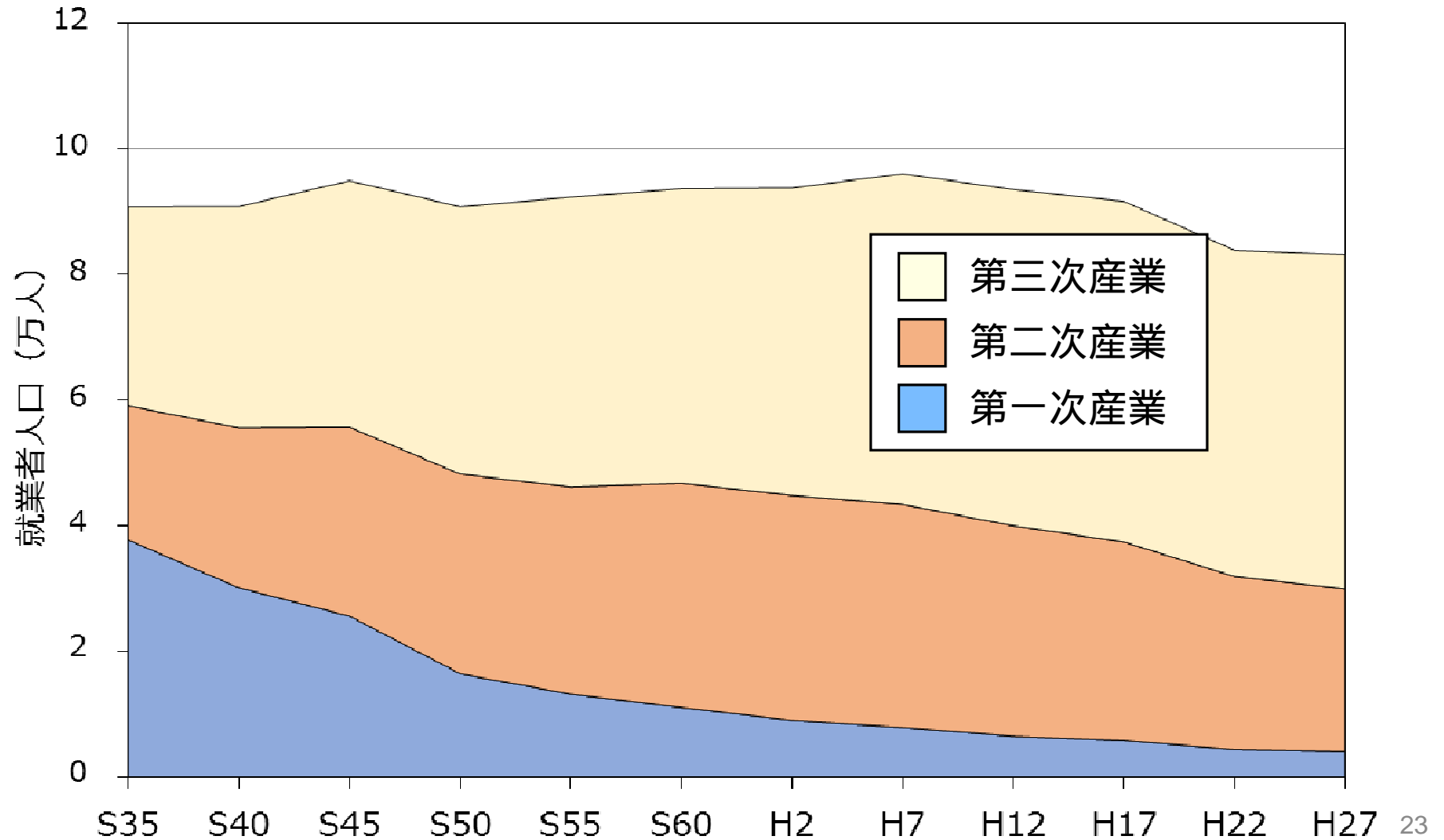




# 産業別就業者数



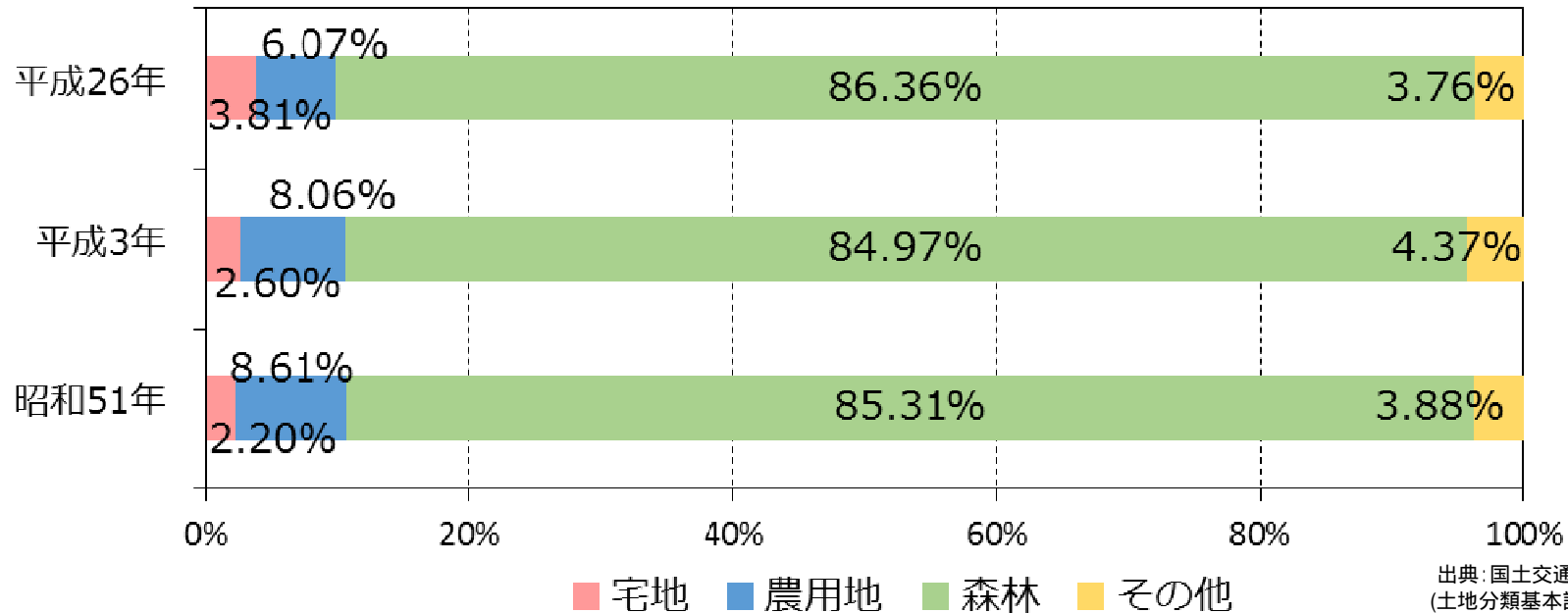
- 宮川流域の関係6市町では、昭和35年と平成27年を比較すると第一次産業に従事する人口の割合が大きく減少し、第三次産業に従事する人口が大幅に増加



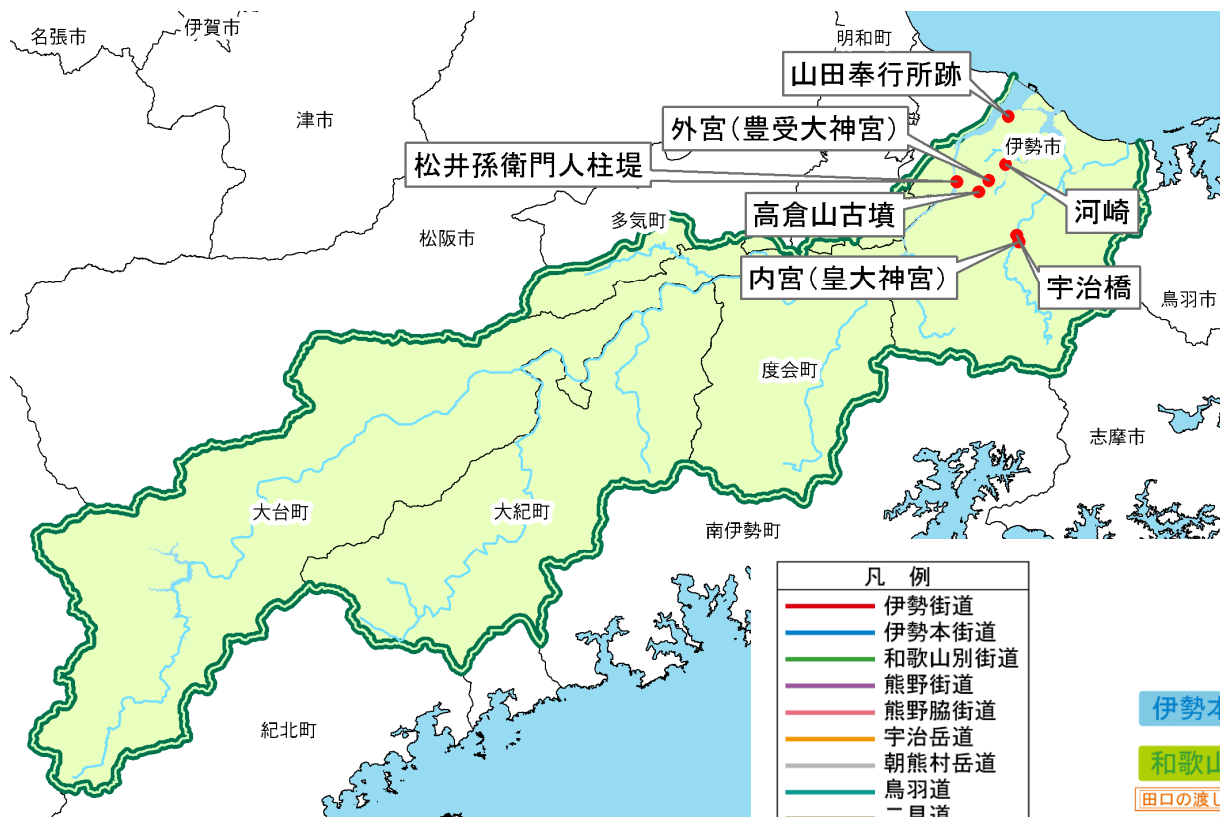
# 土地利用



- 市街地は伊勢市に集中しており、高度成長期以降に周辺の農地が開発され市街化が進んでいる。中流から上流の土地利用には、大きな変化は無く、流域の大半を森林が占め、河道沿いに農地や市街地が発達している。



# 歴史・文化



**【古代】**  
 伊勢神宮の創祀は大和朝廷の勢力の拡大した5～7世紀といわれる。持統天皇時代に第1回式年遷宮が行われている

**【中世】**  
 鎌倉時代には伊勢神宮領が拡大し、宇治・山田の郷が繁栄するが、戦国時代には、神宮領が戦国大名の侵略を受け、15世紀中ごろから、約100年、式年遷宮も杜絶した。

凡例

- 伊勢街道
- 伊勢本街道
- 和歌山別街道
- 熊野街道
- 熊野脇街道
- 宇治岳道
- 朝熊村岳道
- 鳥羽道
- 二見道
- 流域界



伊勢神宮・宇治橋 25  
 (三重県HPより)

**【近世】**  
 江戸時代には、お伊勢参りが全盛を向かえ、神宮周辺の経済・文化が発達。宇治と山田には、自治活動が認められ、山田奉行所が置かれていた。

**【近代】**  
 明治39年に宇治山田市が誕生、戦後、伊勢市に改称。宮川流域は、現在、伊勢市、大台町、度会町、大紀町、多気町、玉城町の1市5町からなる



# 土地利用規制



- 都市計画区域は河口部の伊勢市、玉城町のみで、流域の大半は、自然公園地域に指定されている。





# 治水の現状と課題（水害の歴史）



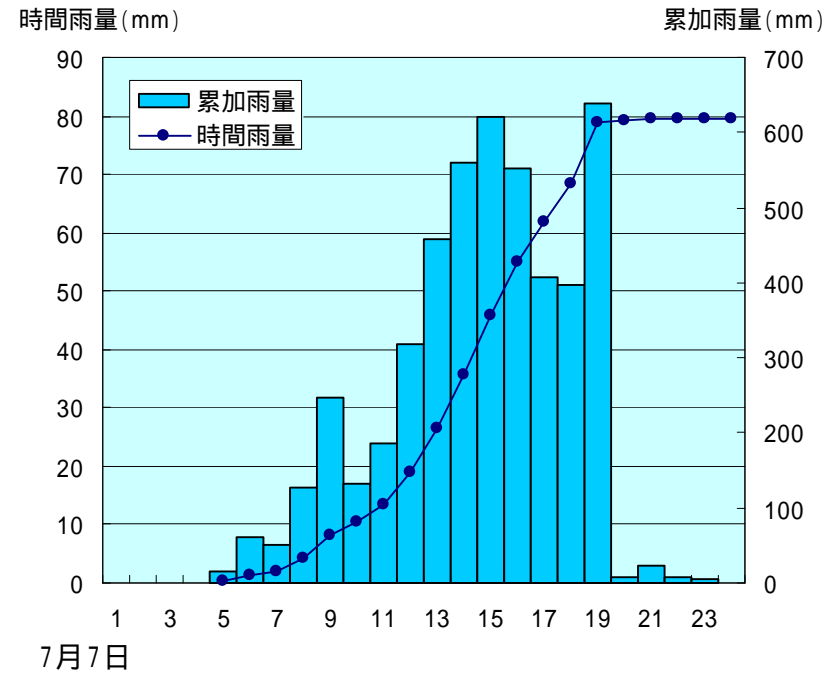
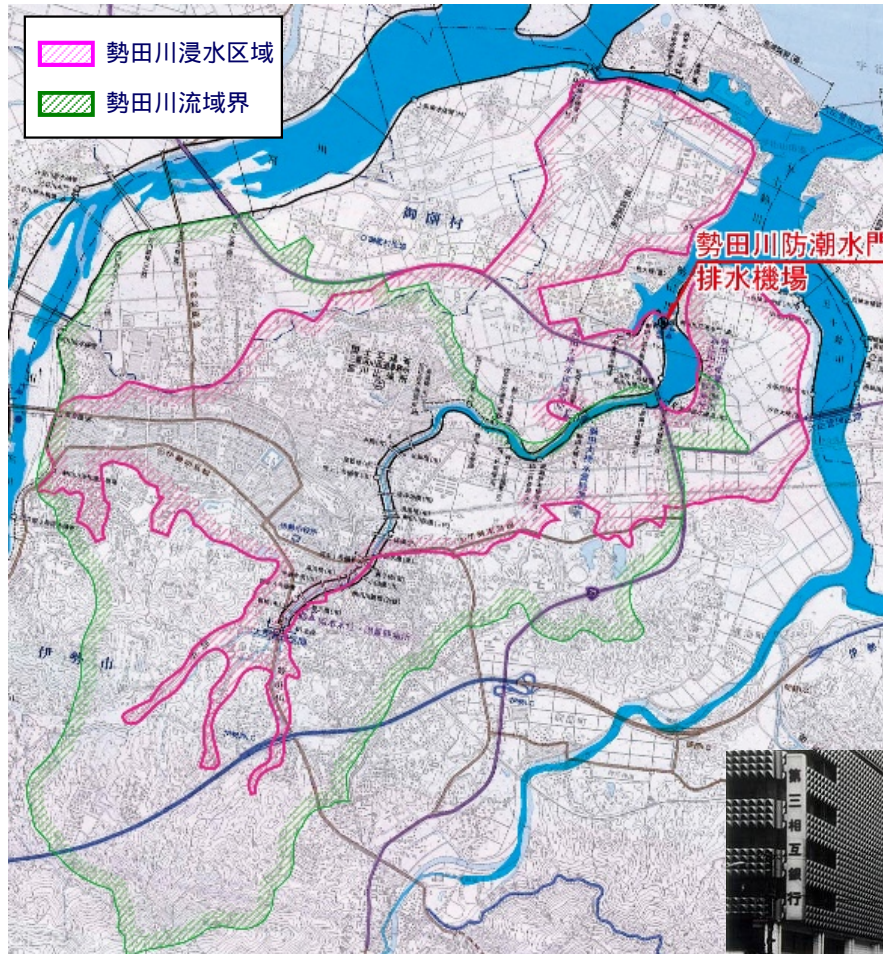
年月日	要因・名称	降雨	被害概要	浸水戸数(戸) 3		被災を受けた 主な河川 3	備考
				床下浸水	床上浸水		
昭和34年 9月	伊勢湾台風	総雨量：725mm (宮川観測所)	浸水 高潮	不明		(不明)	2
昭和49年 7月	台風第8号・七夕 災害・集中豪雨	24時間：495mm (伊勢観測所)	溢水・破堤・内水・ 浸水・土石流	0	2,575	宮川、五十鈴川、大 内山川	2
昭和57年 8月	台風第10号	時間：51mm (宮川観測所)	溢水・越水・内水・ 土石流	1,820	400	宮川、五十鈴川派川、 大内山川、横輪川	3
平成3年 9月	台風第17～19号	総雨量：231mm 時間：22mm (宮川観測所)	溢水・越水・内水	671	130	大内山川、横輪川、	3
平成6年 9月	台風第26号	総雨量：547mm 時間：77mm (宮川観測所)	溢水・越水・内水	96	12	宮川、桧尻川、横輪 川	3
平成9年 9月	集中豪雨	総雨量：199mm 時間：32mm (小俣観測所)	内水	38	4	宮川、桧尻川、横輪 川	3
平成10年 5月	低気圧	総雨量：166mm 時間：44mm (宮川観測所)	溢水・内水	20	0	宮川、桧尻川	3
平成16年 9月	台風第21号	総雨量：753mm 時間：119mm (宮川観測所)	溢水・越水・内水	53	285	宮川、大内山川、桧 尻川、横輪川	3
平成23年 9月	台風第12号	48時間：640mm 時間：47mm (宮川観測所)	溢水・内水	15	54	宮川、勢田川、五十 鈴川、大内山川、桧 尻川、汁谷川他	4
平成29年 10月	台風第21号	48時間：539mm 時間：62mm (小俣観測所)	溢水・内水	670 (伊勢市全体)	409 (伊勢市全体)	勢田川・桧尻川・汁 谷川	5

1：伊勢湾台風災害誌（P48） 2：伊勢湾台風災害誌（P101より、大内山村、大宮町、大台町、宮川村、伊勢市、二見町、小俣町、度27  
会村、御園村を集計） 3：水害統計（宮川流域の合計値） 4：国土交通省資料より 5：勢田川流域等浸水対策実行計画書

# 治水の現状と課題（浸水実績）



□ 昭和49年(1974)7月7日、七夕災害による被害(伊勢市内)



伊勢市駅前



勢田川 姫野橋



# 治水の現状と課題（浸水実績）



## □ 平成23年9月2日 台風第12号

**【7.2k右岸】堤防漏水**

**【中島地区】**  
・無堤部の溢水による家屋浸水

**【辻久留地区】**  
・内水による田畑冠水

**【亀谷郡川流末】**  
・内水による家屋浸水、道路冠水、田畑冠水

**【小田古川流末】**  
・内水による道路冠水、田畑冠水

**【佐八地区】**  
・無堤部の溢水による家屋浸水、道路冠水、田畑冠水

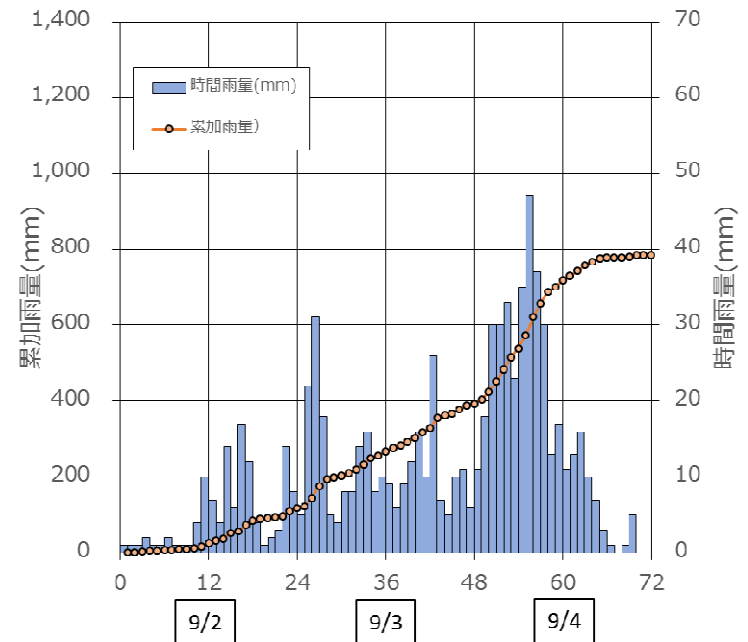
**【大倉川流末】**  
・内水による家屋浸水、道路冠水、田畑冠水

ポンプ排水実施

主要地方道伊勢南島線

大倉川

主要地方道伊勢南島線



降雨量（宮川雨量観測所）



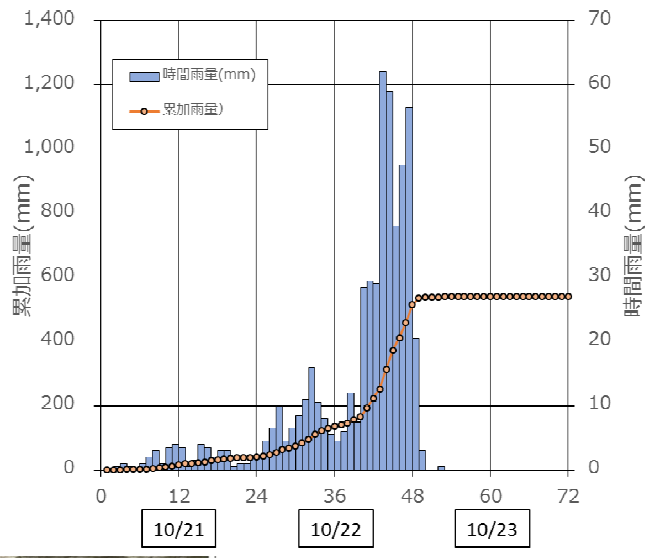
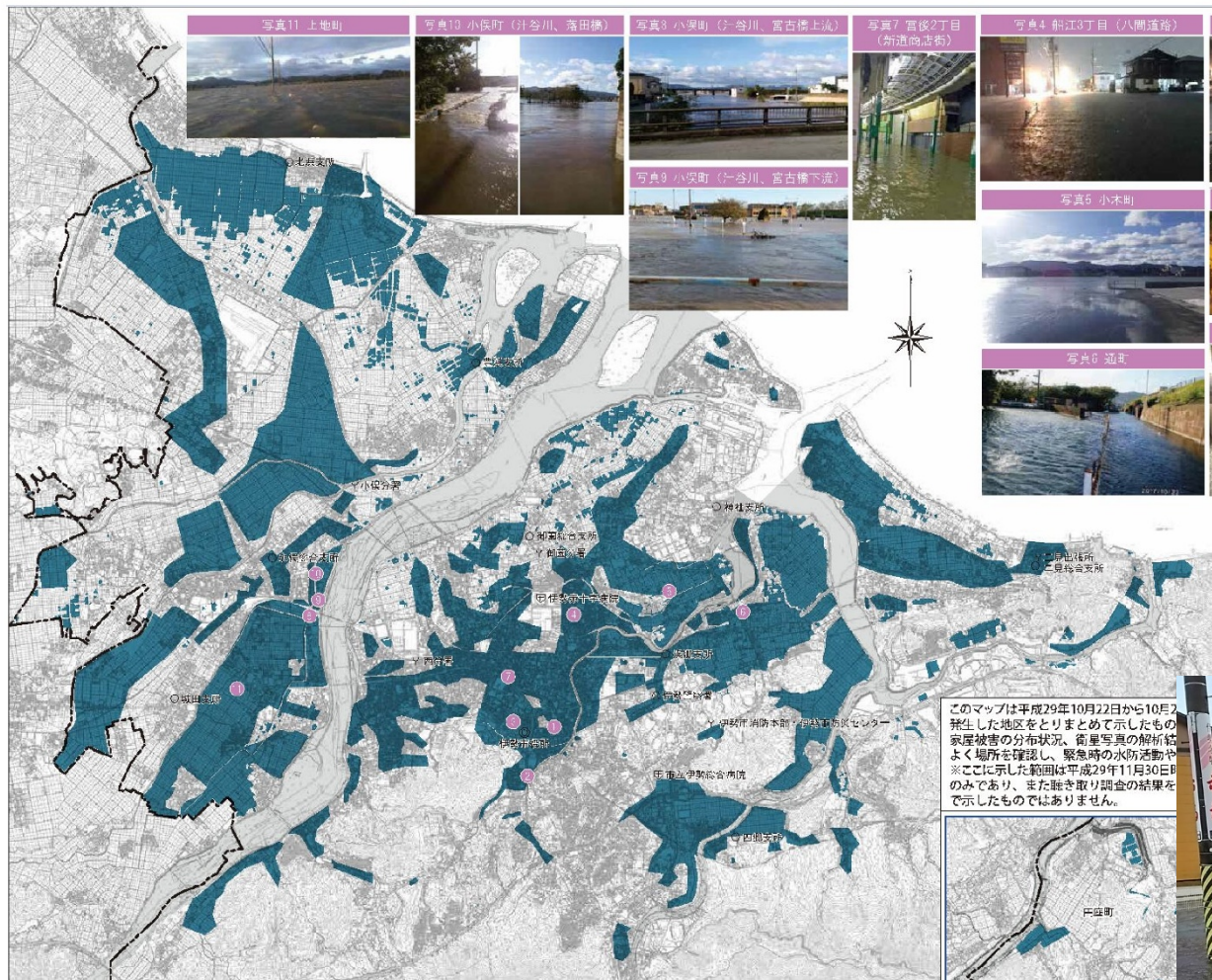
宮川の水位状況(JR参宮線宮川橋梁)



# 治水の現状と課題（浸水実績）



## □ 平成29年10月21日台風第21号



降雨量（小俣雨量観測所）

河川区域	○
市境界線	— 警察
市役所	◎ 消防
支所	○ 病院

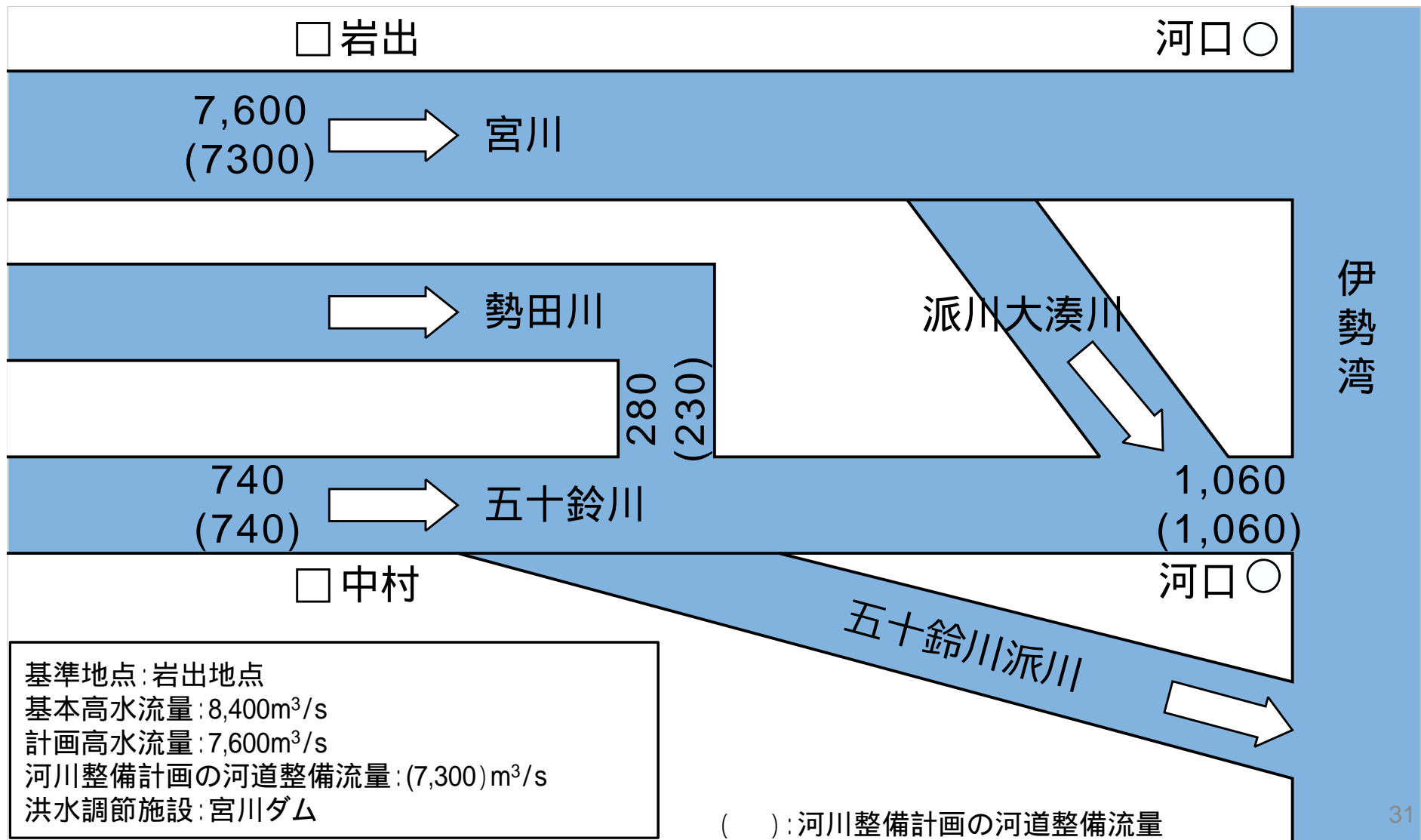
出典：伊勢市資料



伊勢市小俣町宮前

# 治水の現状と課題 (河川整備計画の概要：直轄区間)

- 宮川直轄管理区間：宮川水系河川整備基本方針（平成19年11月）  
 :宮川水系河川整備計画【大臣管理区間】（平成27年11月）

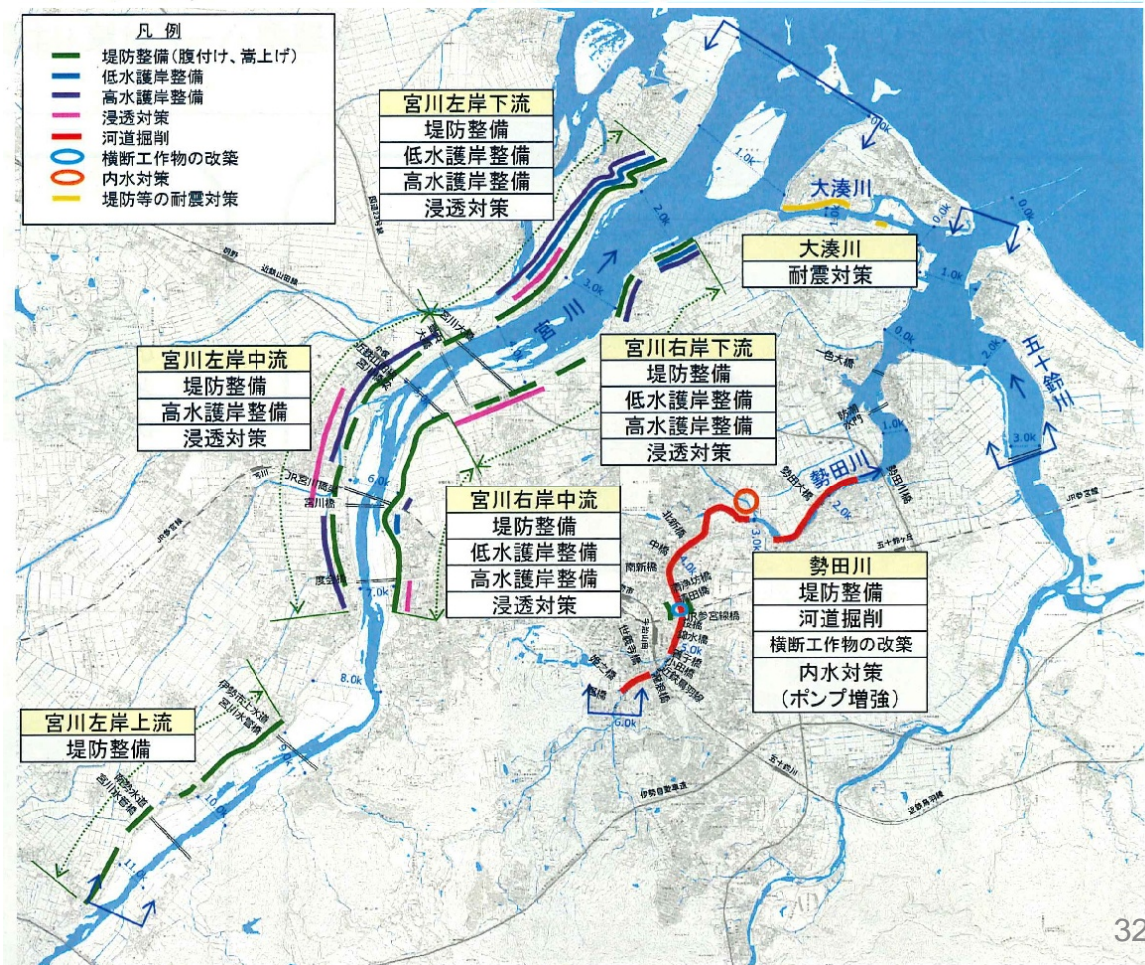




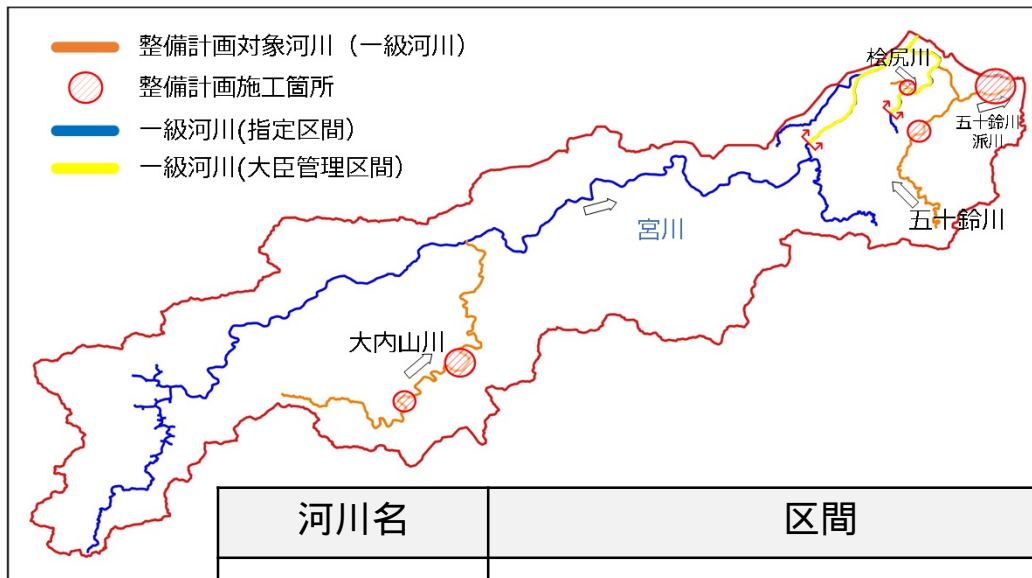
# 治水の現状と課題（河川整備計画の概要：直轄区間）

- 策定日：平成27年11月
- 対象期間：概ね30年間
- 対象河川：宮川水系大臣管理区間の全区間
- 河川工事の主な整備内容、施工位置

河川	整備内容	
宮川	堤防整備 (腹付け、嵩上げ)	11.1km
	低水護岸整備	2.4km
	高水護岸整備	5.9km
勢田川	堤防整備	0.4km
	河道掘削	7.9万m <sup>3</sup>
	横断工作物の改築	1橋
	内水対策 (桧尻川排水機場増強)	1施設
大湊川	堤防等の耐震対策	1.1km



# 治水の現状と課題（河川整備計画の概要：指定区間）



- 策定日：平成29年3月10日
- 対象期間：概ね30年間
- 対象河川：
  - 宮川水系指定区間の全区間
- 汁谷川は未策定
- 河川工事の施工場所

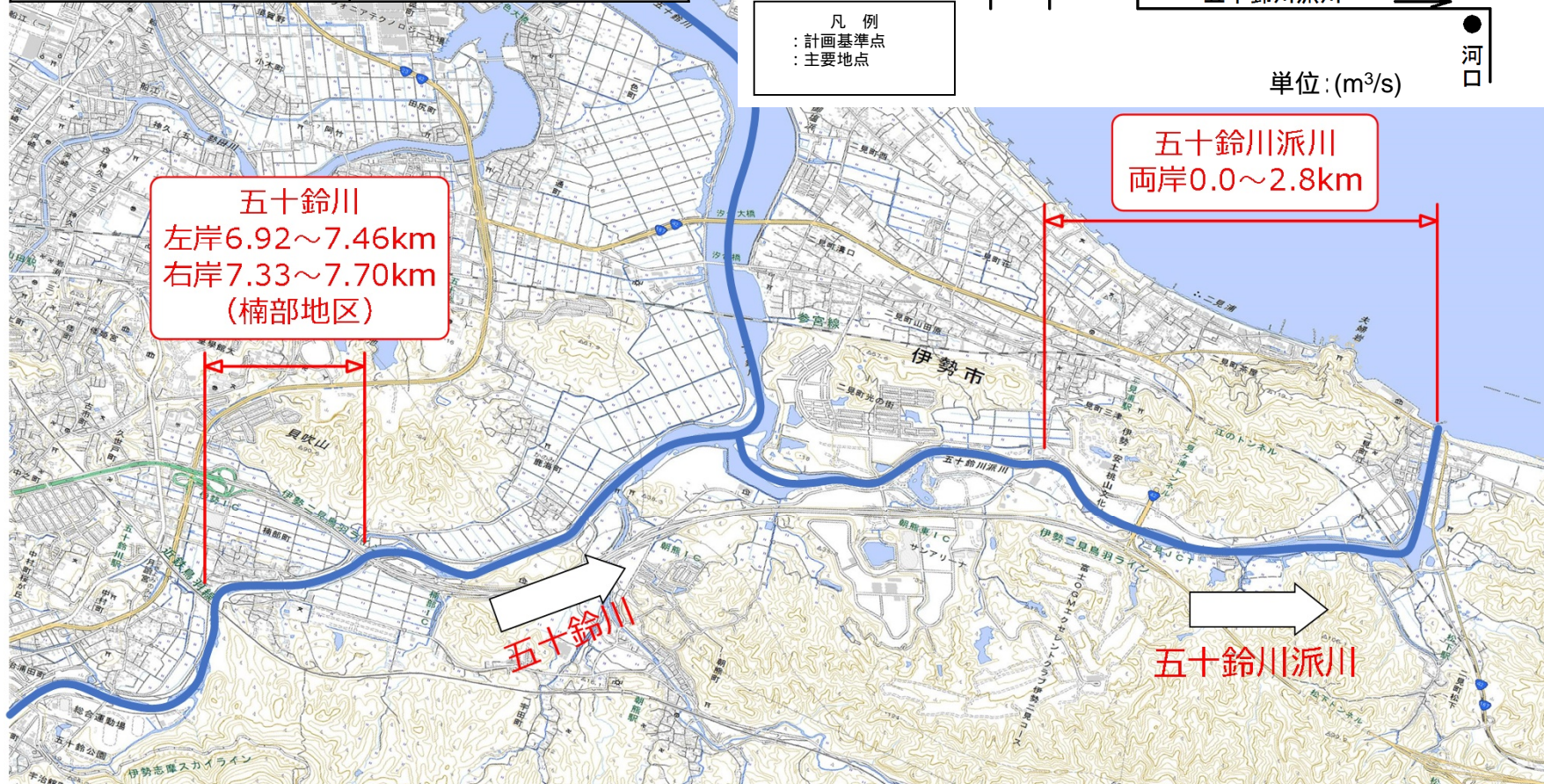
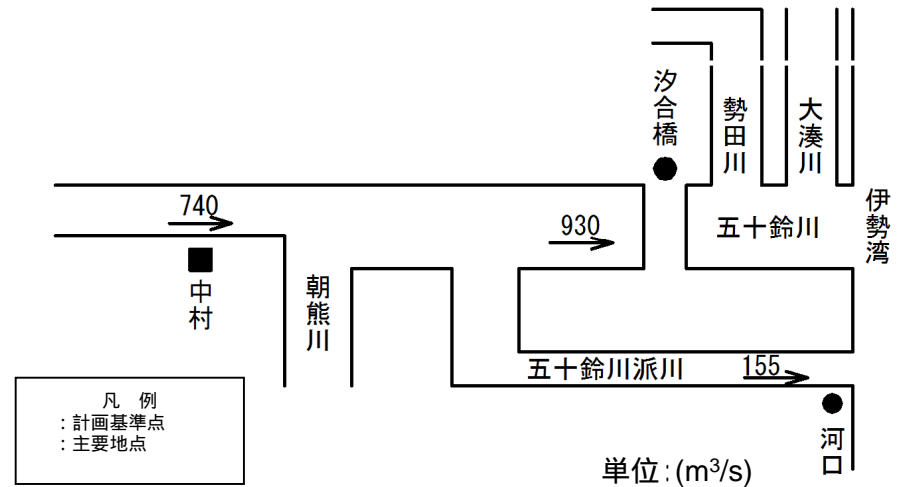
河川名	区間	主な工事内容
五十鈴川	楠部工区： 左岸6.92 k ~ 7.46 k 右岸7.33 k ~ 7.70 k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床掘削、河道拡幅、護岸、築堤</li> <li>・橋梁改築、堰改築</li> </ul>
	五十鈴川派川 両岸0.0 k ~ 2.8 k	
桧尻川	両岸0.0 k ~ 1.6 k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床掘削、河道拡幅、護岸、築堤</li> <li>・橋梁改築</li> </ul>
大内山川	柏野工区：両岸6.2 k ~ 8.3 k 崎工区：両岸8.3k ~ 11.0 k 車瀬工区：両岸16.1 k ~ 18.15 k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床掘削、河道拡幅、護岸、築堤</li> </ul>
汁谷川	未策定	



# 治水の現状と課題 (河川整備計画の概要：指定区間)

## 五十鈴川

河川整備計画	
計画規模	1/50
基準点	中村
計画高水流量	740m <sup>3</sup> /s





# 治水の現状と課題 (河川整備計画の概要：指定区間)

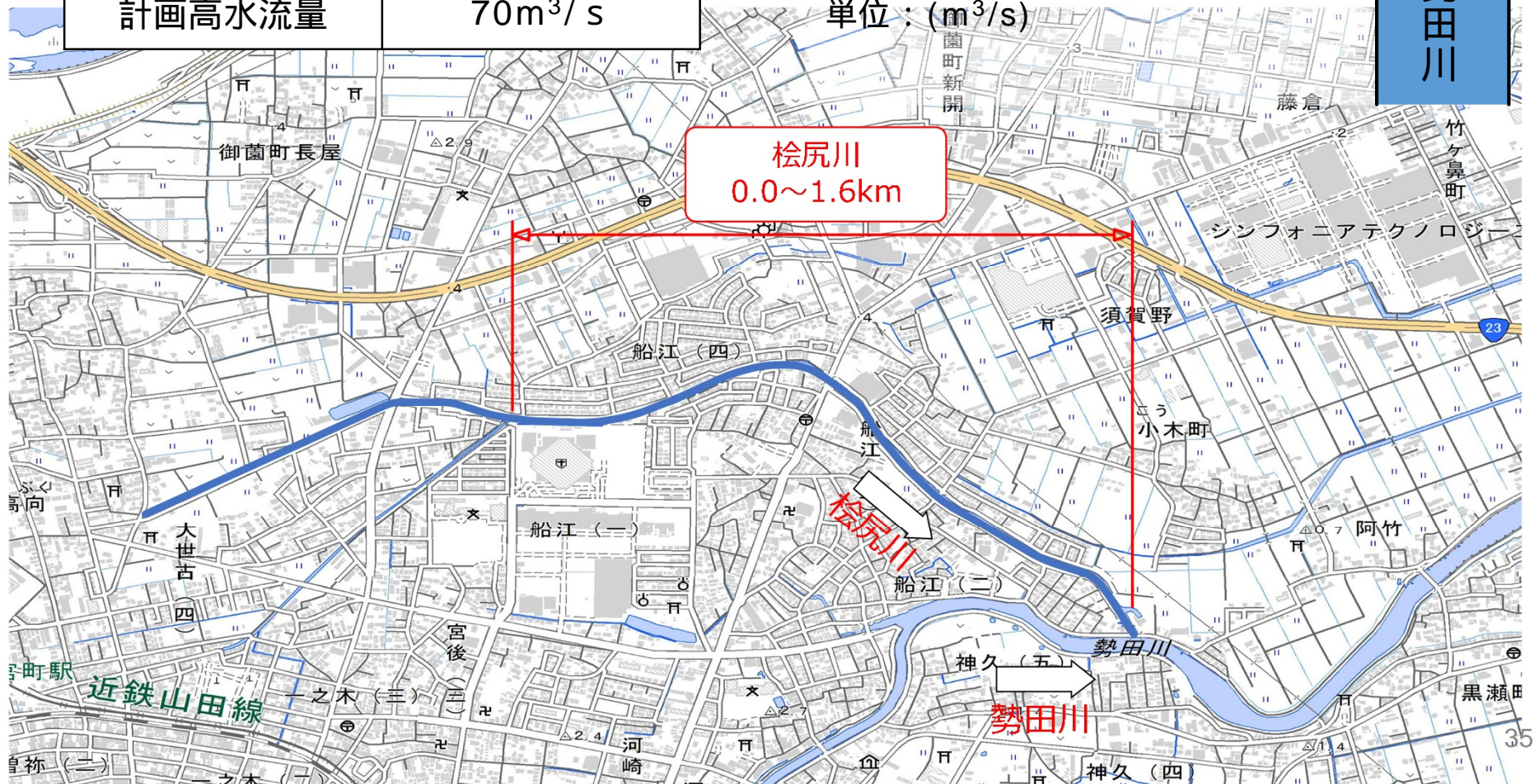
## □ 桧尻川

河川整備計画	
計画規模	1/30
基準点	勢田川合流点
計画高水流量	70m <sup>3</sup> /s

■ 計画基準点



単位：(m<sup>3</sup>/s)

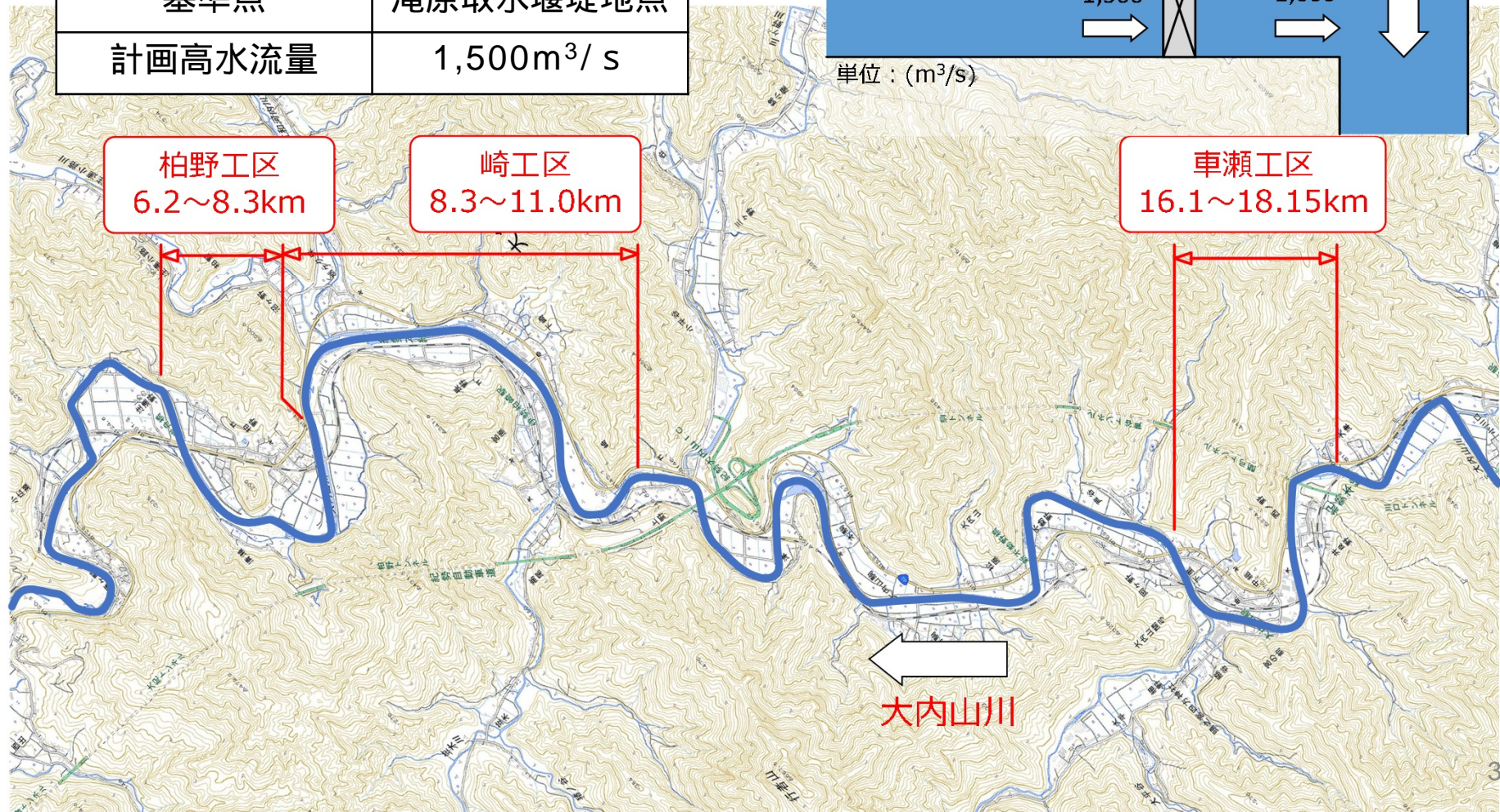
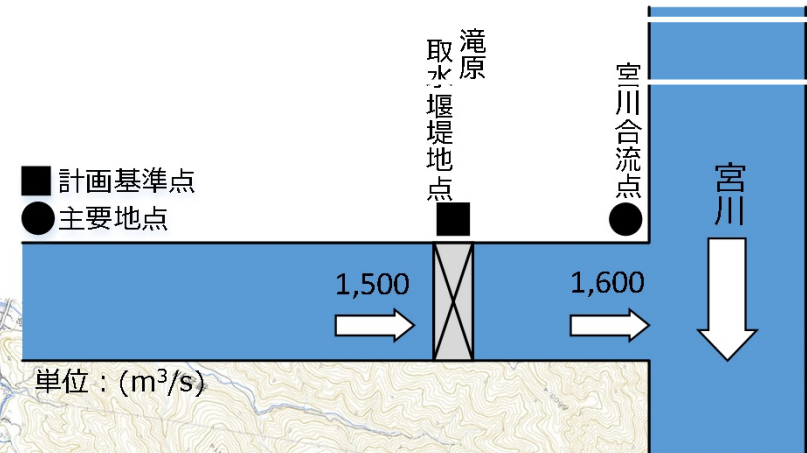




# 治水の現状と課題 (河川整備計画の概要：指定区間)

## □ 大内山川

河川整備計画	
計画規模	1/30
基準点	滝原取水堰堤地点
計画高水流量	1,500m <sup>3</sup> /s





# 環境の現状と課題（宮川）



## < 現状 >

宮川水系は、多くの支川からなり、渓谷から低平地を流れる都市河川まで、様々な環境が見られる。

## < 課題 >

各河川の特徴を踏まえた、河川整備が必要。

河口部  
河口に形成されている干潟は、シギ・チドリ類の生息地となっている。

シェード部：  
現行の河川整備計画対象河川の流域



大杉谷  
日出ヶ岳から急峻な  
渓谷を蛇行しながら  
流下。



宮川本川上流（70km付近）  
侵食によって形成された切り  
立った崖地を流下



26～27km区間  
河岸段丘面上は宅地や茶畑に  
利用。



17km付近  
礫河原と瀬と淵が連続して  
存在山付き部は森林環境を  
形成





# 環境の現状と課題（宮川）



上流部：源流部は「吉野熊野国立公園」に指定され、公園内には国指定天然記念物「大杉谷」がある。また、国指定天然記念物のニホンカモシカ・ネギキ、県指定の天然記念物のオダガハラサシヨウウオの生息が確認されている。



大杉谷



ニホンカモシカ



オダガハラサシヨウウオ

下流部：瀬淵や河畔林等により多様な環境が形成されており、ゲンジボタルやタゴ類の生息、アリの産卵床などが確認されている。河口の干潟は鳥類の渡りの中継地やカ類の生息場として利用されている他、水際のヨシ群落等の塩沼地性草地をオヨシキリが繁殖に利用している。



ヨシ群落



シロドリ



オヨシキリ

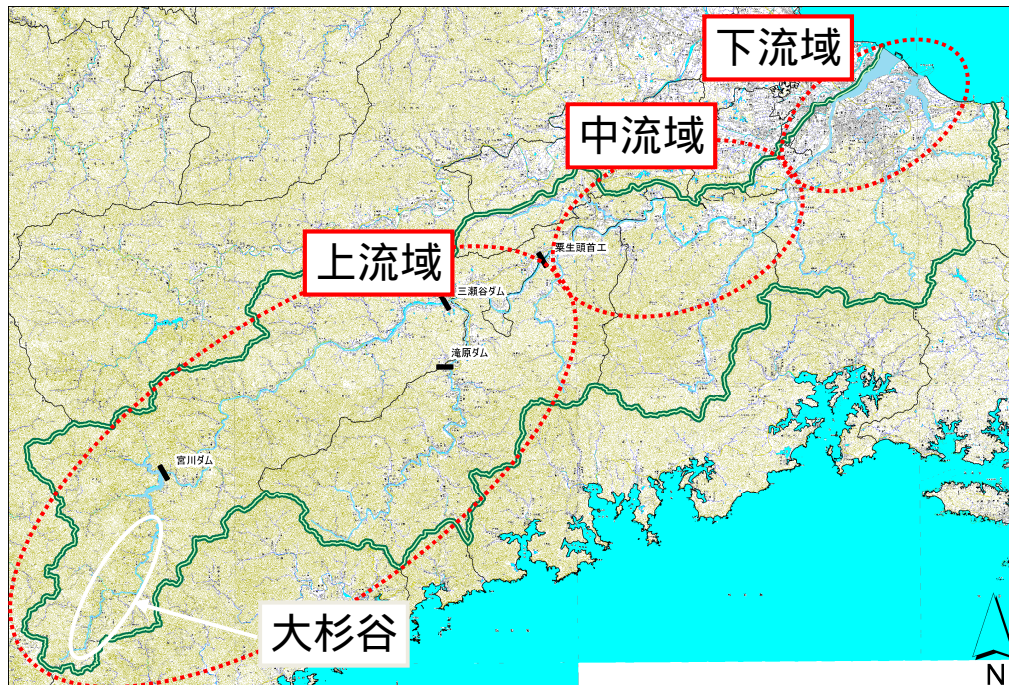
中流部：河岸段丘が発達し、自然河岸が多く残る。清流にはアカサやスヤツム類が生息。



アカサ



スヤツム類



## < 現状 >

・流域の大半が自然公園に指定され良好な自然環境を有しており、渓谷から低平地を流れる都市河川まで様々な環境が見られる。

## < 課題 >

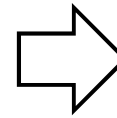
・良好な自然環境の保全、生態系に配慮した河道改修が必要

# 環境の現状と課題（宮川）



## < 現状 >

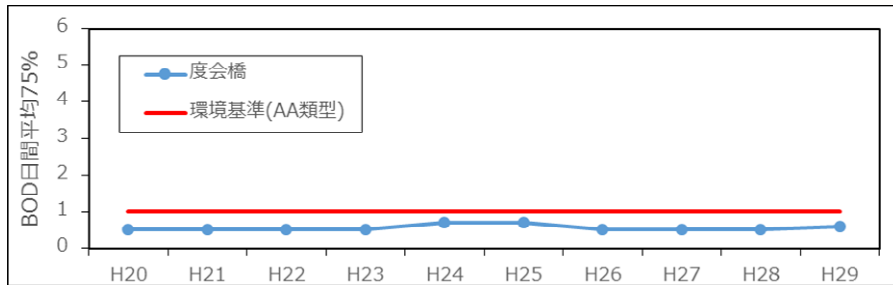
- ・宮川本川下流度会橋は良好な水質を維持(AA類型)
- ・本川上流の船木橋、五十鈴川宇治橋では、環境基準(AA類型)を越えることがある
- ・勢田川は、環境基準(C類型)を満足できない。



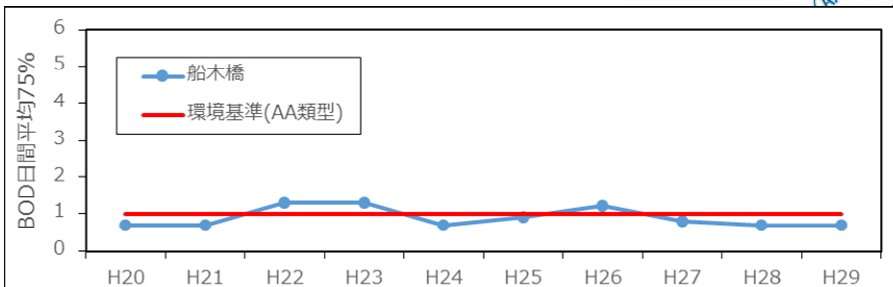
## < 課題 >

下水道整備と連携し水質浄化を行う必要がある。

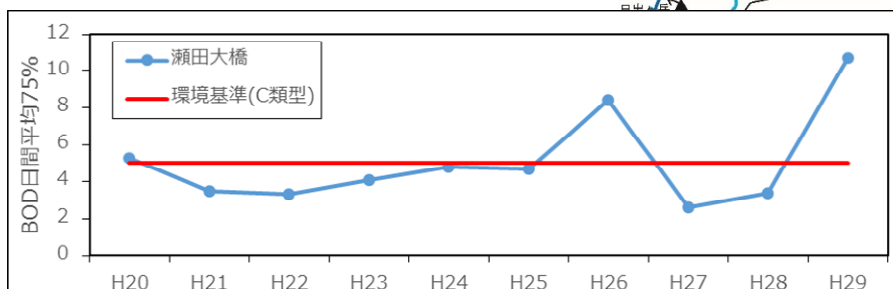
宮川



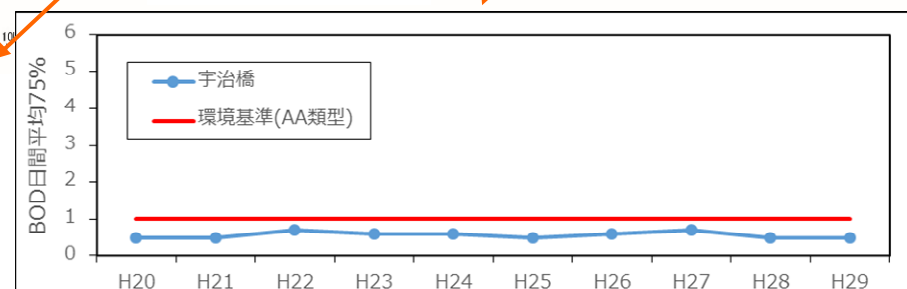
宮川



勢田川



五十鈴川







## 5 . 汁谷川流域の概要



# 汁谷川の概要

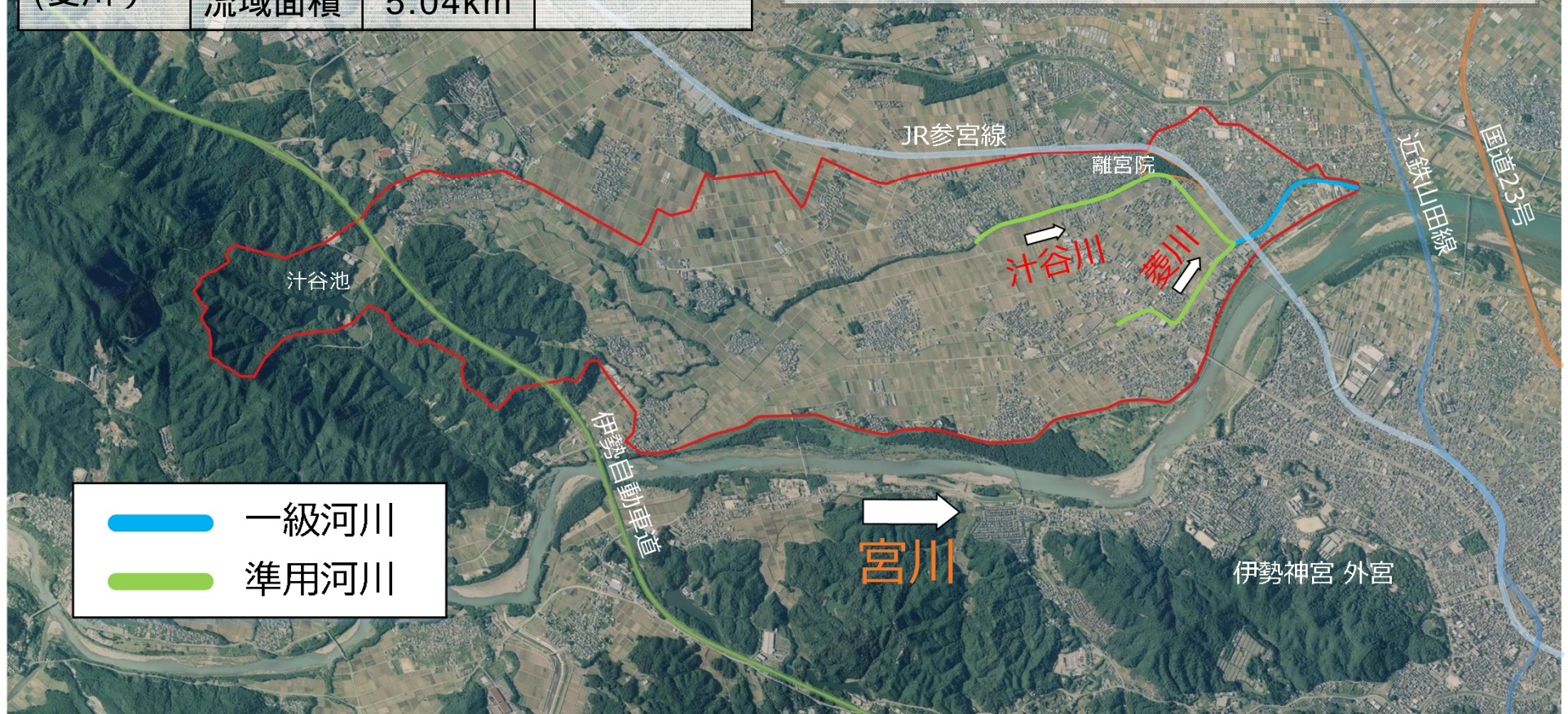


項目	内容		備考
水系	一級河川 宮川		
流域面積	11.68km <sup>2</sup>		菱川含
汁谷川	一級区間	1,160m	
	準用区間	1,470m	
支川 (菱川)	河道	1,070m	準用河川
	流域面積	5.04km <sup>2</sup>	

## 汁谷川

- 伊勢市北部を流れる宮川の支流のひとつで、離宮院の近くを流れることから、離宮川とも呼ばれている。沿川には伏流水が湧き出ているところもあり、子どもたちの遊び場となっている。

「宮川流域ルネッサンス協議会HP」より

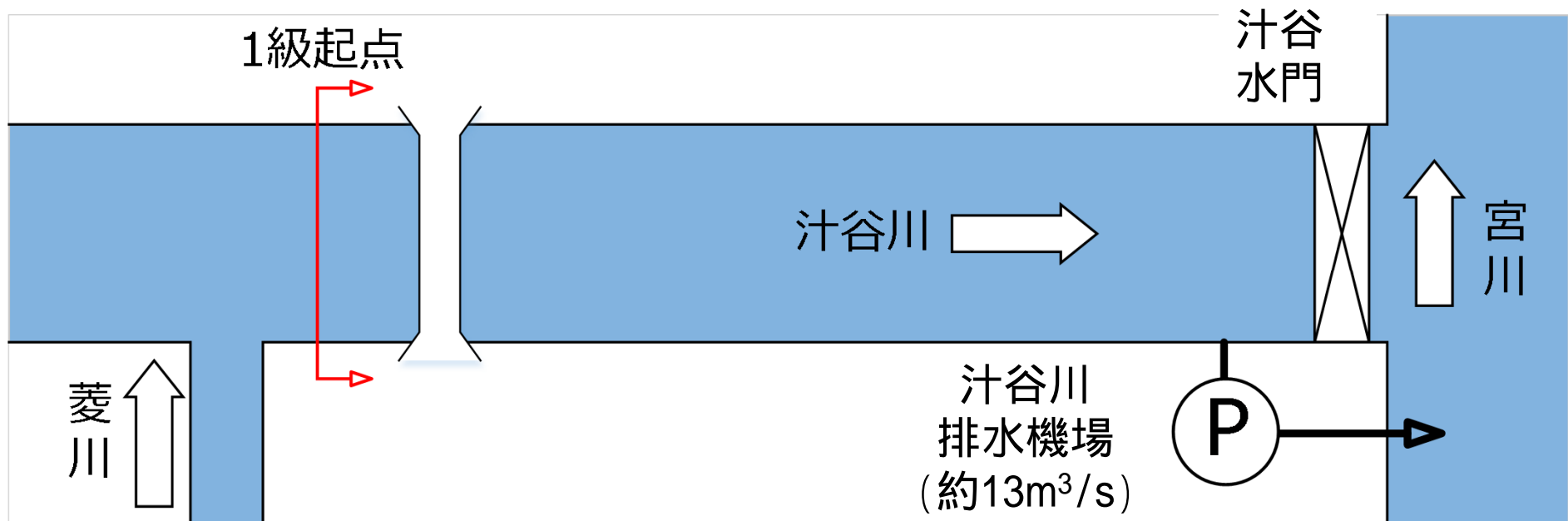




# 河川の整備状況（汁谷川）



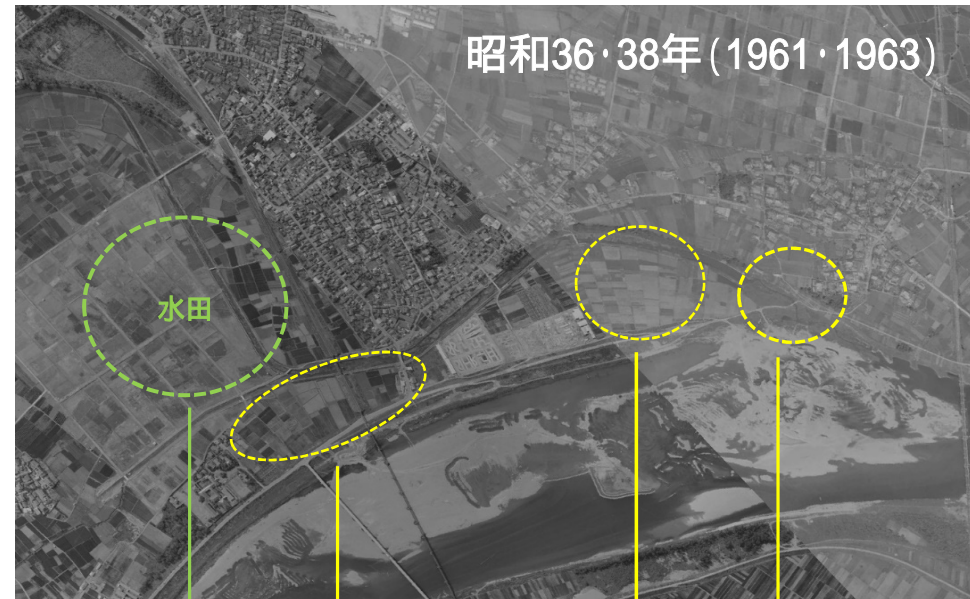
- これまでに治水計画は未策定
- 汁谷川の河道改修は昭和30年代より農地の排水改良事業として河川（排水路）改修を実施
- 昭和45年に県営宮川改修事業により水門設置
- 昭和54年に汁谷川湛水防除事業により排水機場設置
- 平成8～12年度に県営新生産調整推進排水対策特別事業により排水機場の増設、一級区間上流部の河川改修を実施



# 河川の変遷（汁谷川）



- 汁谷川と宮川の合流点に、水門が整備された。
- 汁谷川と宮川の間の水田が、市街化により、工場や宅地に変化。
- 指定区間上流の水田地帯は、一部宅地化が進んでいるが、大きな変化は見られない。





# 主要洪水の概要（汁谷川の浸水実績）



- 平成29年10月台風21号で汁谷川流域で大規模な浸水被害が発生

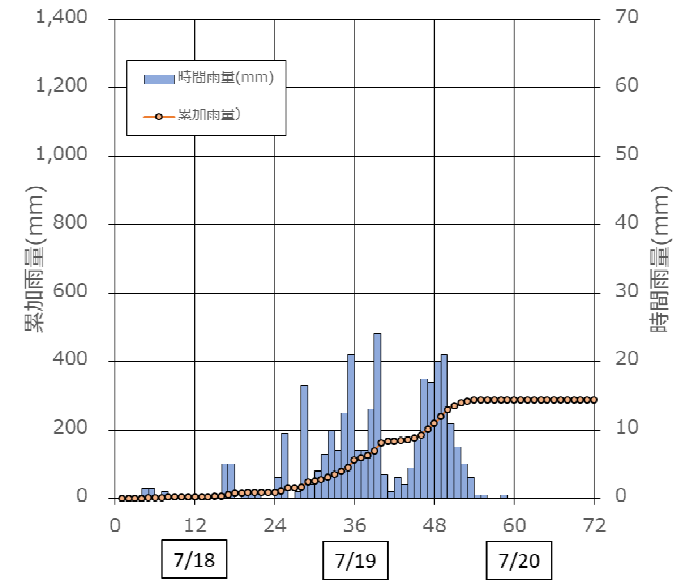
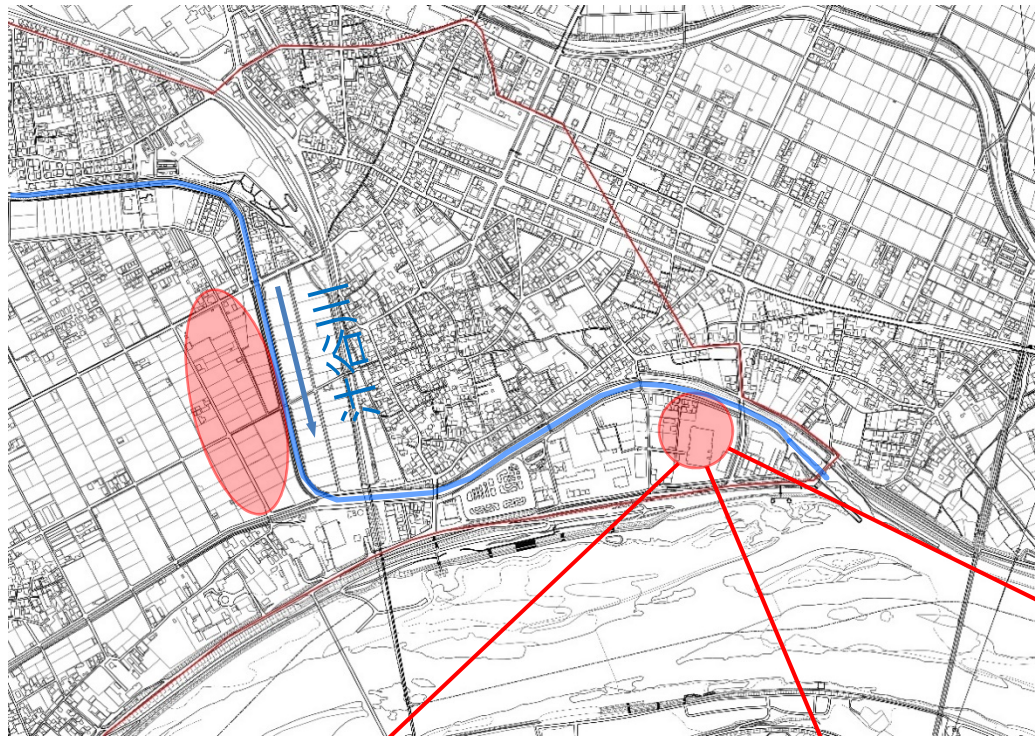
年月日	要因名称	降雨 (小俣観測所)	被害概要	汁谷川の 被害状況	備考
平成23年 7月19日	台風 第6号	時間：24mm 総雨量：289mm	床下浸水：6戸	溢水 内水	1
平成29年 10月21日	台風 第21号	時間：62mm 総雨量：539mm	床下浸水：48戸 床上浸水：157戸 (伊勢市汁谷川のみ)	溢水 内水	2

1：水害統計 2：水害統計調査票（三重県提供）

# 主要洪水の概要（汁谷川の浸水実績）



□ 平成23年7月19日 台風第6号



降雨量（小俣雨量観測所）



伊勢市小俣町中小俣地先



伊勢市小俣町中小俣地先



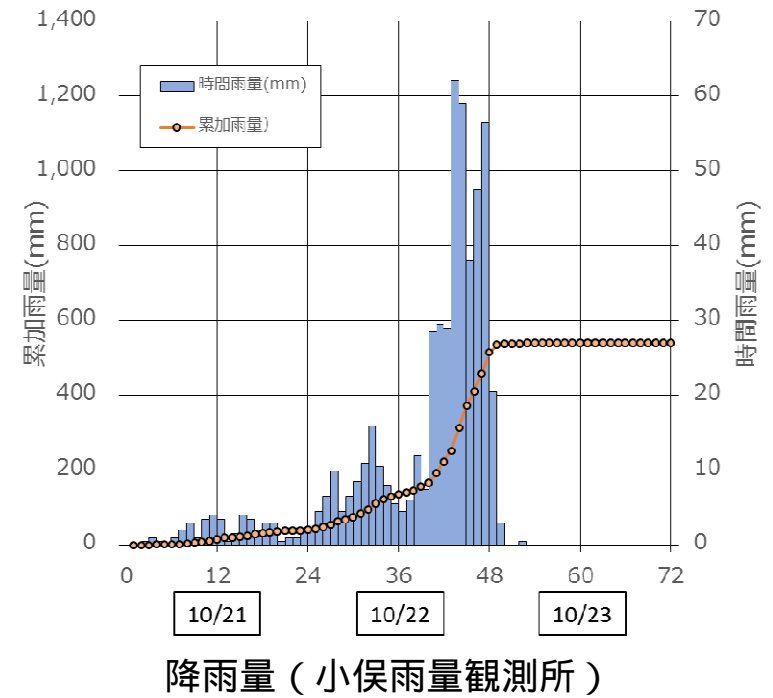
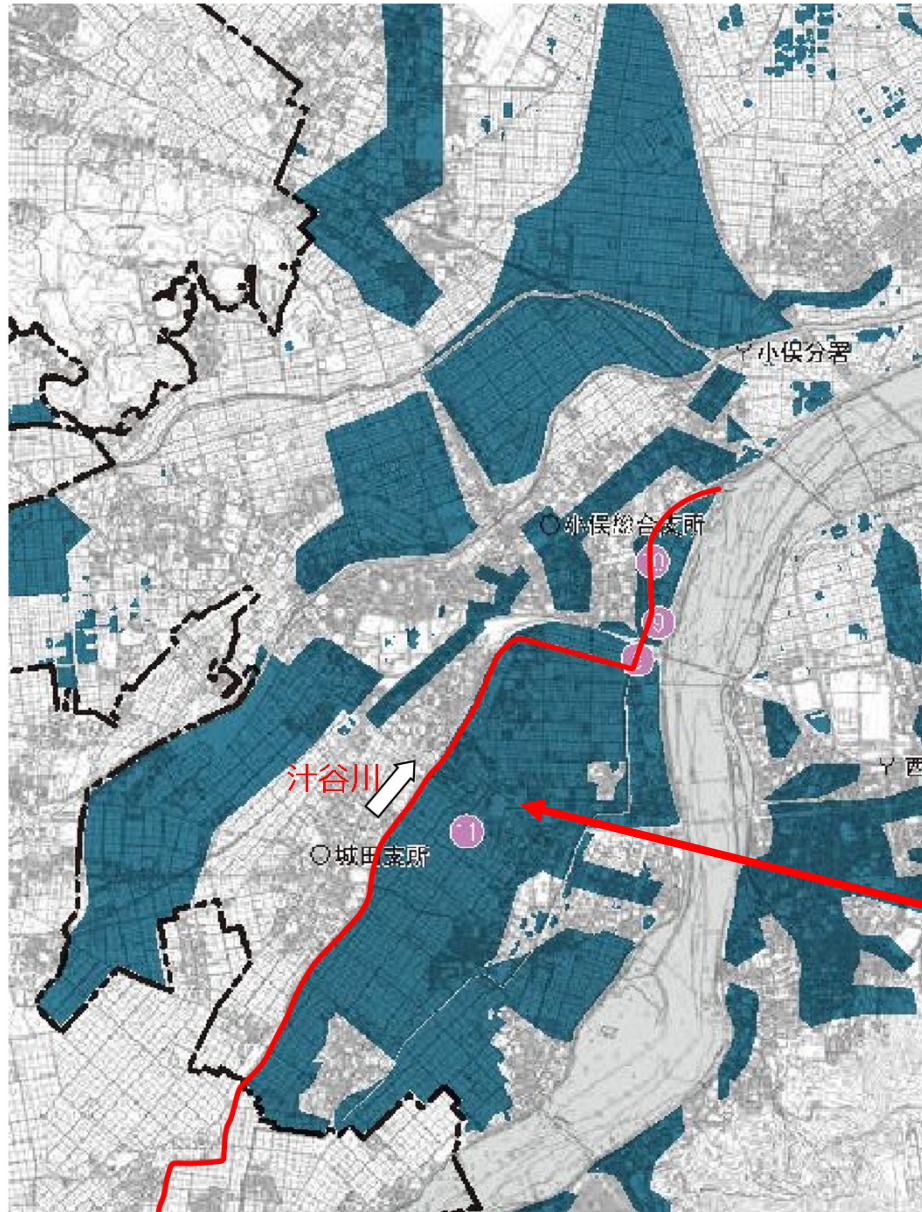
伊勢市小俣町中小俣地先



# 主要洪水の概要（汁谷川の浸水実績）



## □ 平成29年10月21日台風第21号



伊勢市小俣町宮前地先

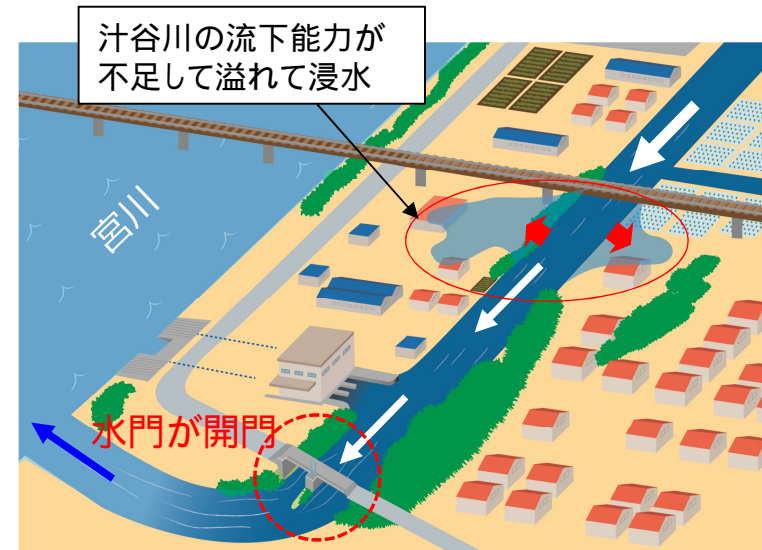
# 主要洪水の概要（汁谷川の氾濫要因）



## □ 汁谷川における氾濫の要因

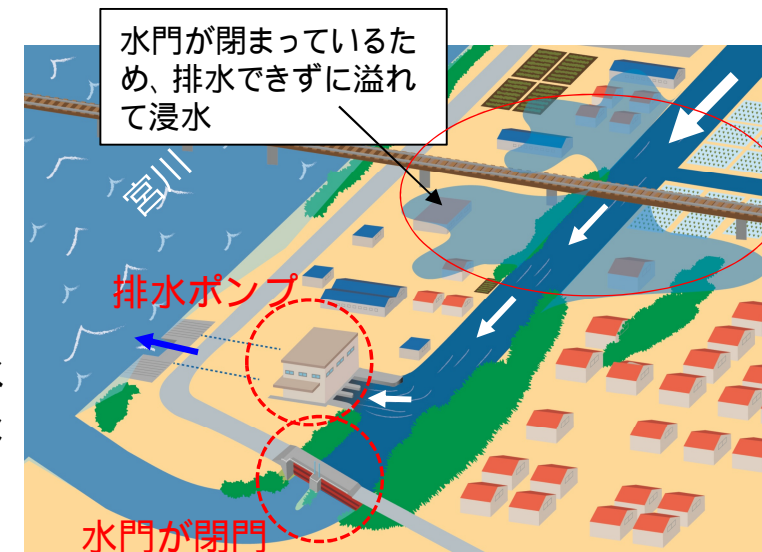
### 汁谷川の外水氾濫（宮川の水位が汁谷川より低い場合）

- 宮川の水位が汁谷川より低い場合、汁谷川の流域に降った雨は、汁谷川を流れて宮川に自然排水されます。
- 汁谷川の流下能力を超えた雨が発生すると、堤防の低い部分から溢れて、流域に浸水被害が発生します。
- 汁谷川の外水が溢れて浸水するため、「汁谷川の外水氾濫」となります。



### 宮川に対する内水氾濫（宮川の水位が汁谷川より高い場合）

- 宮川の水位が汁谷川より高い場合は、宮川の洪水が汁谷川に逆流しないように、水門を閉鎖します。
- この時、汁谷川流域に雨が降ると、汁谷川から宮川に自然排水されずに河道内に貯留されます。
- 貯留された水は、流末の排水ポンプで宮川に排水しますが、排水ポンプの能力を超えた雨が発生すると、河道内に貯留した水位が上がり、溢水したり、流域に降った雨が川に排水できなくなり浸水被害が発生します。
- 汁谷川（支川）の洪水が宮川（本川）に排水できなくなり溢れて浸水するため、「宮川に対する内水氾濫」となります。

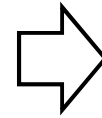




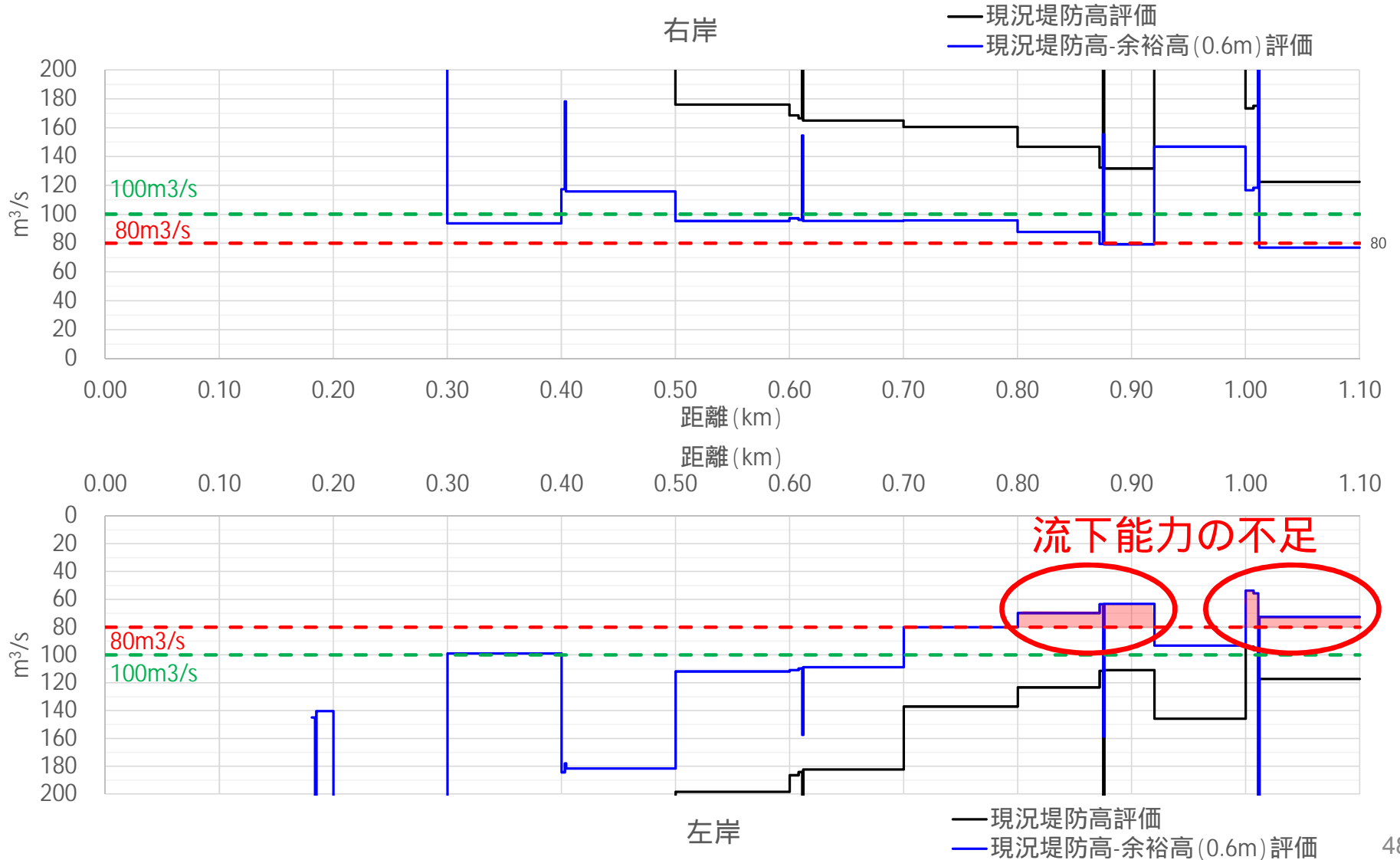
# 治水の現状と課題（汁谷川の外水氾濫）



現状：左岸0.8～1.1km付近を除き、概ね80m<sup>3</sup>/s以上の流下能力がある

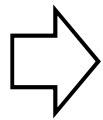


課題：左岸0.8～1.1km付近の流下能力の向上（外水氾濫対策）

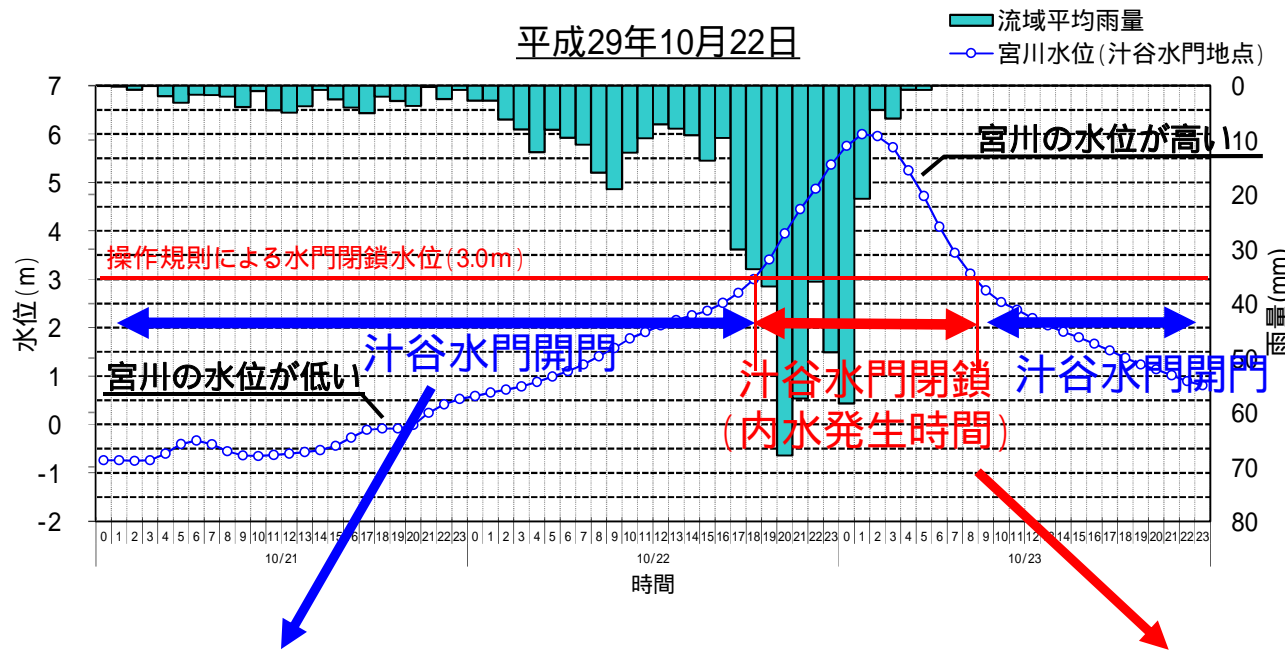


# 治水の現状と課題（宮川に対する内水氾濫）

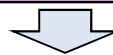
現状：H29.10洪水では、汁谷水門閉鎖時に、  
浸水被害が発生した



課題：汁谷水門閉鎖時における浸水対策  
（宮川に対する内水氾濫対策）



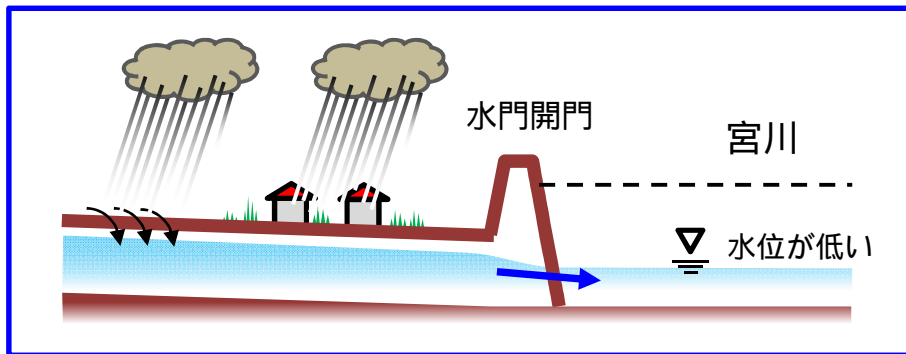
宮川の水位が汁谷川の水門閉鎖水位 (3.0m) より上昇



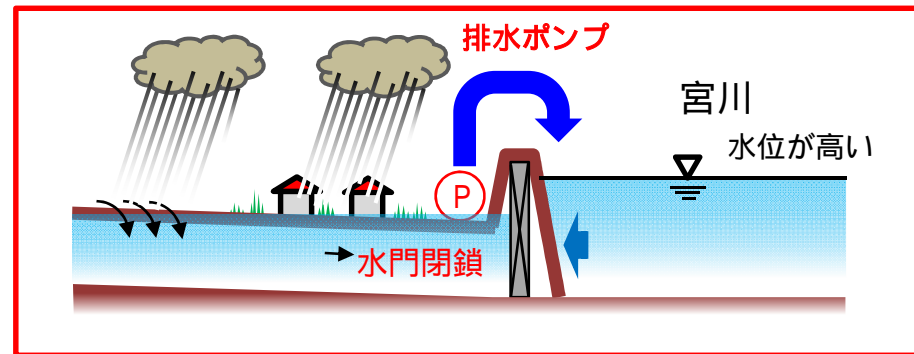
逆流を防止するため水門を閉鎖、既設ポンプ (約13m<sup>3</sup>/s) により宮川へ排水



ポンプ能力を上回る貯留により、  
浸水被害が発生



【 開門時 】



【 閉門時 】

# 利水の現状と課題（水利用）

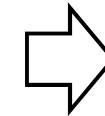


## < 現状 >

- ・ 汁谷川の指定区間では、水利権等の設定はなく水利用は行われていない。
- ・ 汁谷川流域は宮川用水の受益地であり、宮川より取水された用水が供給されている。このため、夏季には農業用水の落水により汁谷川の流量は増加する。
- ・ 宮川ではH29年に渇水が発生しており、一時、取水制限が行われた。
- ・ 汁谷川では、過去の水位・流量観測データの蓄積がない。

## < 課題 >

- ・ 平常時の水位流量観測の実施とデータ蓄積による現状把握



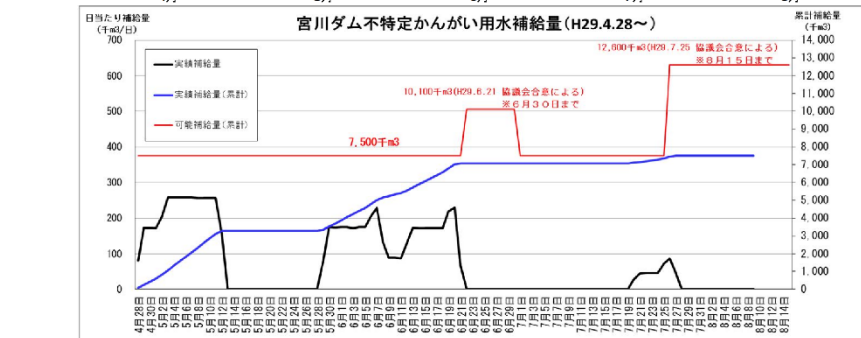
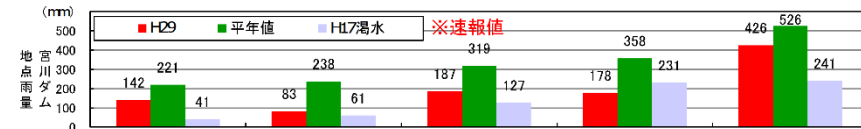
## H29渇水対応の状況

宮川用水の受益地



出典：国土交通省三重河川事務所HPに加筆

対応時期	対応内容
平成29年6月16日	三重河川国道事務所渇水対策支部設置
平成29年6月21日 第1回宮川渇水調整会議	取水制限（上水：自主、農水35%） 宮川ダムの発電貯留量の融通
平成29年7月25日 第2回宮川渇水調整会議	水利用調整 取水制限（上水：自主、農水25%）
平成29年8月9日 第3回宮川渇水調整会議	節水解除、水融通の終了 三重河川国道事務所渇水対策支部解散



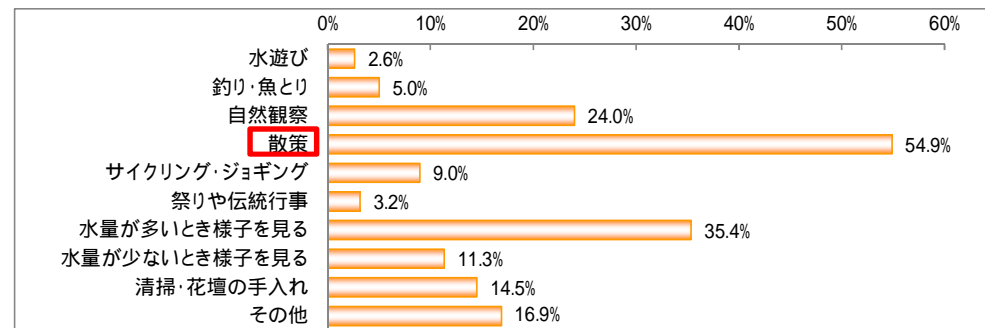
# 利水の現状と課題（河川利用）



## □ 汁谷川の河川利用

- ・汁谷川の上流には、ため池(汁谷池等)が整備されており、河道は農業用排水路として利用され、各所に小規模な取水堰がみられる。
- ・汁谷川の指定区間では、水辺に近づくための階段が設置されている。
- ・沿川住民に対するアンケートでは、汁谷川へ行く目的として、散策をあげる人が多い。

汁谷川へ行く目的（沿線住民アンケートより）



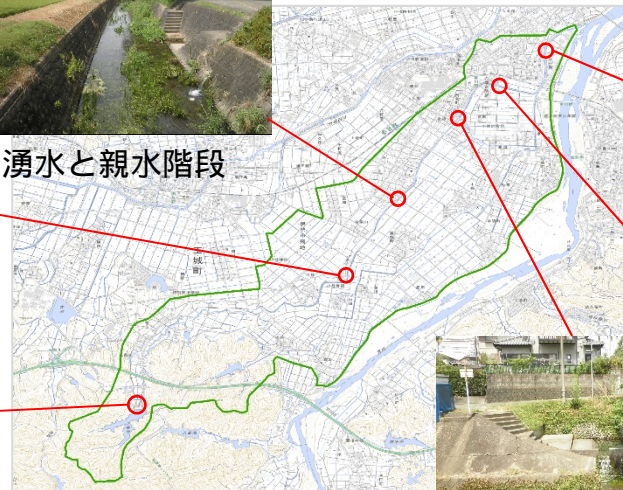
小規模な取水堰



汁谷池（ため池）



湧水と親水階段



湧水を利用した親水施設



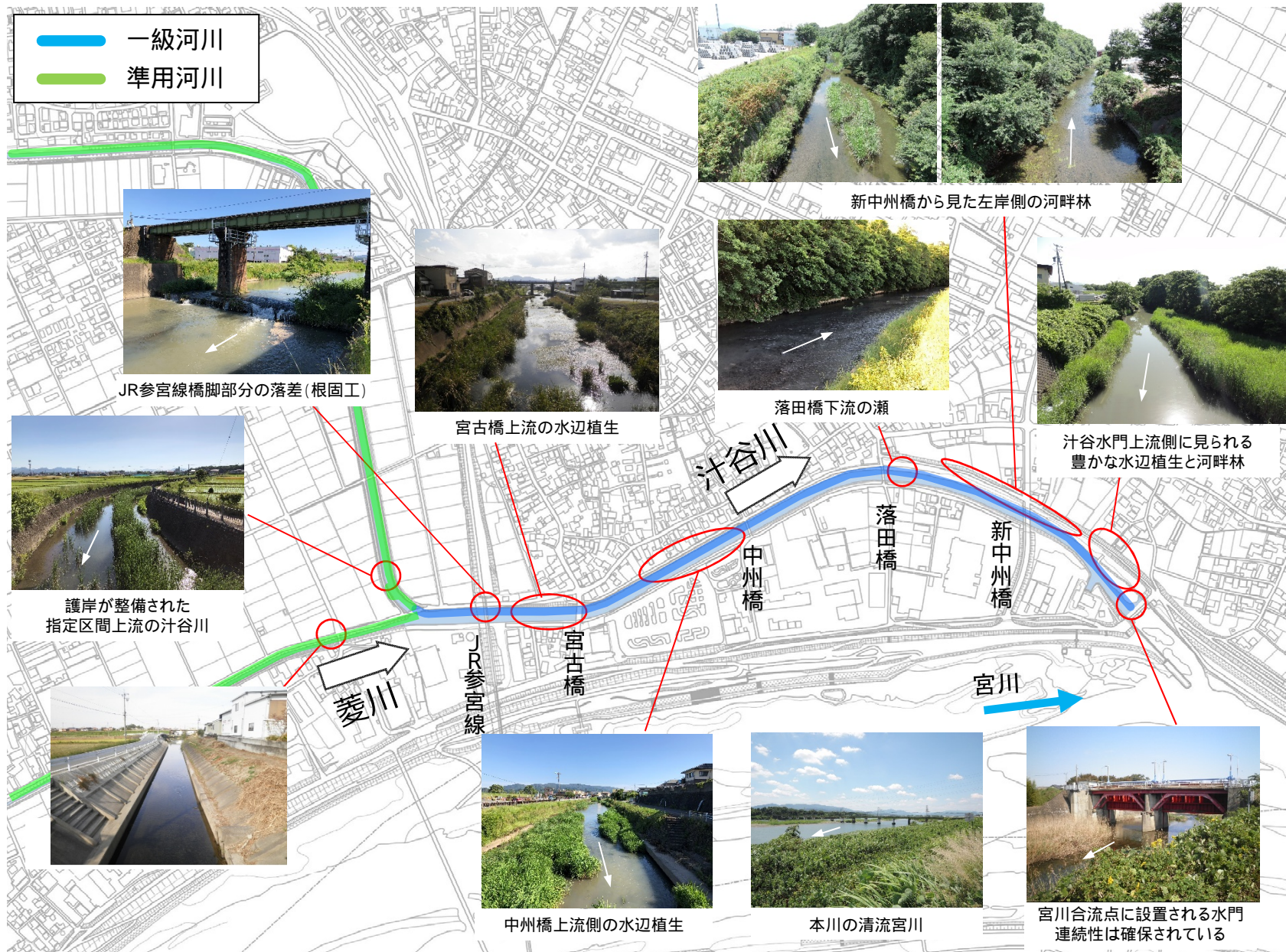
河道内の階段



離宮院跡付近の親水整備



# 環境の現状と課題（汁谷川）





# 環境の現状と課題（汁谷川）



□ 汁谷川(指定区間)では既往の文献より、以下の生物が確認された。赤字：重要種、青字：外来生物

資料名	発行年	発行元	確認状況
汁谷川産魚類ハンドブック	H27.4	三重大学生物資源学部魚類増殖学研究室編	河川の下流域から汽水域にかけて生息するカワアナゴや、淡水域に生息するアブラボテ、ミナミメダカ等が確認された。
三重県野生生物データベース	H25.9	三重県農林水産部みどり共生推進課	河川の中流域や下流域に生息する魚類のカワヒガイや、干潟に生息する底生動物のオカミミガイ、海岸や河口域に生息する鳥類のミサゴ、イカルチドリ、河川敷の堤防などに生息する陸上昆虫類のシロヘリツチカメムシ、三重県内では伊勢市のみで分布が確認されている常緑樹のトキワマンサク等が確認された。
一級河川汁谷川及び二級河川外城田川水系河川整備計画策定にかかる植物類の現地調査報告	H30.5	三重県文化財保護指導委員	道端や河原などに群生するコメツブツメクサ、湿地に生育するタチヤナギ、河川敷や荒地等に生育するセイタカアワダチソウ等が確認された。
みえ生物誌(植物、哺乳・爬虫・両生類、鳥類、昆虫)	H30.12	三重自然誌の会	現地調査で確認された重要種、特定外来生物について、みえ生物誌に記載されていることを確認した。

## 【文献調査結果による重要種、特定外来生物の確認状況】

魚介類	61種確認 重要種:39種(マルタニシ、アリアケドキ、ニホンナギ、カマキリ等) 特定外来生物:1種(オクチバス)
鳥類	37種確認 重要種:37種(コガン、クマカ、カラフトアオアシキ等) 特定外来生物:確認なし
両爬虫類	3種確認 重要種:3種(トサマガエル、ナゴヤダルマガエル、アカウミガメ) 特定外来生物:確認なし
陸上昆虫	25種確認 重要種:23種(シロヘリツチカメムシ、オムラサキ、カクインロジョウカイ等) 特定外来生物:確認なし
植物	69種確認 重要種:45種(トキワマンサク、オナモミ、ミスオハコ等) 特定外来生物:確認なし



カワアナゴ



アブラボテ



ミナミメダカ

出典：汁谷川産魚類ハンドブック

# 環境の現状と課題（汁谷川）



現状：多くの重要種が確認されている一方  
特定外来生物も確認されている。



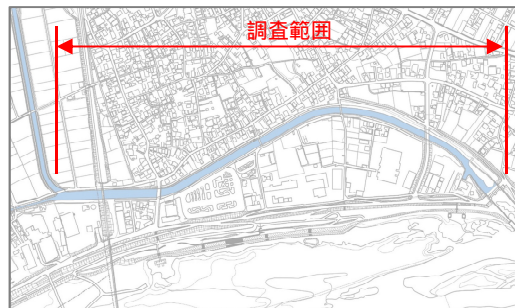
課題：重要種、良好な環境の保全、  
特定外来種の移入回避・除去

- 汁谷川では、本年度、夏季調査、秋季調査、冬季調査を実施し、以下の生物を確認した。  
赤字：重要種、青字：外来生物
- 汁谷川は、河口部から落田橋までの左岸側の段丘部には豊かな河畔林がみられる。河道内は比較的単調であるが、寄州が形成されている箇所にはツルヨシ等の水辺の植生がみられる。
- 魚介類：汽水域に生息するアリアケモドキやマハゼ、淡水域に生息するモクズガニやカマツカ、河川の中流域から河口域などに生息するニホンウナギやカワヒガイ等を確認した。また、特定外来生物のオオクチバスを確認した。
- 鳥類：海岸や河川に生息するイソヒヨドリや草地を嗜好するオオヨシキリ等を確認した。
- 両生類・爬虫類・ほ乳類：重要種であるトノサマガエルやニホンイシガメ、河川敷のヨシ内ではカヤネズミ等を確認した。また、河川敷において、特定外来生物のアライグマの足跡やウシガエルの鳴き声を確認した。
- 植物：木本類のクリやクヌギ、抽水植物のコウホネ属等を確認した。各地で河川改修や農薬により減少しているミズオオバコ等を確認した。また、河川敷においてナガエツルノゲイトウ、河川内においてオオフサモを確認した。

## 【現地調査】

調査項目	調査実施日
両生類・爬虫類・哺乳類	H30.7.3 H30.7.4
鳥類	H30.7.3～7.4 H31.1.8～1.9
魚介類 陸上昆虫類	H30.7.23～24 H30.7.25
植物	H30.7.24 H30.10.22

## 【現地調査実施範囲】



## 【現地状況写真】



左岸の河畔林


















水辺の植生



# 環境の現状と課題（汁谷川）



## 【現地調査による重要種、特定外来生物の確認状況】

	確認状況	重要種			外来種
魚介類	30種確認 重要種:5種(アリアケモドキ、ニホンウナギ、カビガイ、ミナメダカ、カワアナゴ) 特定外来生物:1種(オオクチバス)	 アリアケモドキ	 ニホンウナギ	 ミナメダカ	 オオクチバス
鳥類	32種確認 重要種:6種(オオバン、コチドリ、クサシギ、イソシギ、カワセミ、オオヨシキリ) 特定外来生物:確認なし	 カワセミ	 オオバン	 クサシギ	-
両爬虫類	14種確認 重要種:3種(トノサマガエル、ニホンイシガメ、ニホンスッポン) 特定外来生物:2種(ウシガエル、アライグマ)	 トノサマガエル	 ニホンイシガメ	 ニホンスッポン	 ウシガエル
陸上昆虫	62種確認 重要種:確認なし 特定外来生物:確認なし	-			-
植物	247種確認 重要種:4種(ニッケイ、ゴキツル、ミス'オハコ、ミクリ属) 特定外来生物:2種(ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ)	 ニッケイ	 ゴキツル	 ミクリ属	 ナガエツルノゲイトウ

# 環境の現状と課題（汁谷川）

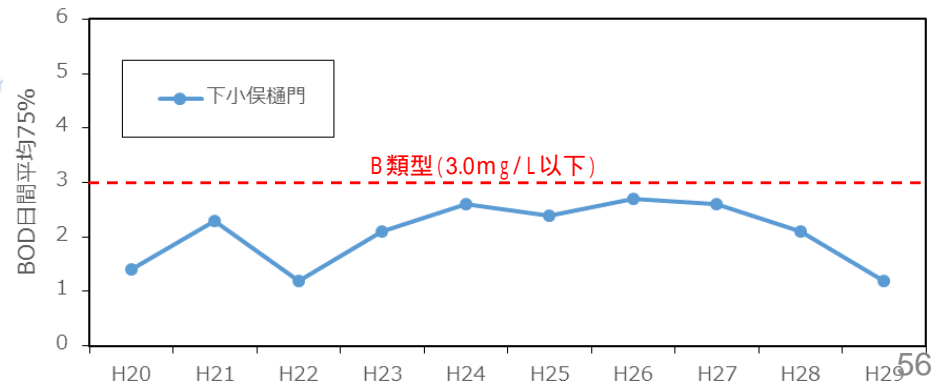
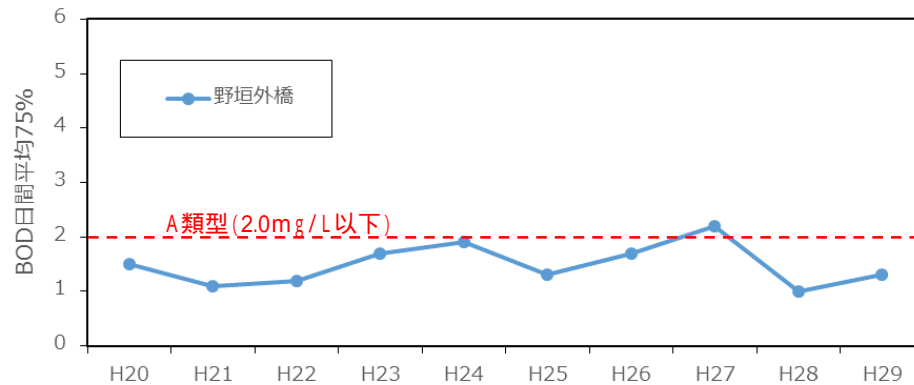


## < 現状 >

- ・汁谷川では環境基準の設定は行われていない。
- ・汁谷川の水質は、BOD指標では、中流部の野垣外橋はA類型の基準値以下の水質、下流部の下小俣樋門はB類型の基準値以下の水質となっている。

## < 課題 >

- ・継続的な河川の水質保全・改善



# 現状と課題（汁谷川）



## □ 汁谷川

項目	現状	課題
治水	<ul style="list-style-type: none"><li>● 平成29年10月洪水等下流域で大規模な浸水被害が生じている。</li><li>● 平成29年度10月洪水等下流域で汁谷水門閉鎖時における浸水被害の発生。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 現況の流下能力向上。</li><li>● 汁谷水門閉鎖時における浸水対策（宮川の内水対策）</li></ul>
利水	<ul style="list-style-type: none"><li>● 水位・流量観測データの蓄積がない。</li><li>● 流域の耕作地は、宮川用水の受益地となっており、かんがい期に流量が多い。</li><li>● 汁谷川に水利権の設定はなく、上流にはため池がある。</li><li>● 水量が少ないと思っている人が7割。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 平常時の水位・流量観測の実施とデータの蓄積。</li></ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"><li>● 重要種の生息を確認。</li><li>● 特定外来生物の生息を確認。</li><li>● 河川の水質はA～B類型程度である。</li><li>● 水がきれい、自然が豊か、景観が良好と感じる人が約3割いるが、水が汚い、自然が乏しい、景観が悪いと感じている人が、概ね5割。</li><li>● 汁谷川の利用としては散策が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 重要種の保全、特定外来生物の移入回避および除去。</li><li>● 良い部分の保全をしつつ、継続的な河川水質の改善等が必要。</li></ul>





## 6 . 基本方針の概要

# 河川整備基本方針の概要



## 宮川水系宮川の河川整備基本方針は、計画規模を1/100として設定されている。

### 2. 河川の整備の基本となるべき事項

#### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、昭和57年8月洪水、平成16年9月洪水等の既往洪水について検討した結果、そのピーク流量を基準地点岩出において  $8,400\text{m}^3/\text{s}$  とし、このうち流域内の洪水調節施設により  $800\text{m}^3/\text{s}$  を調節して、河道への配分流量を  $7,600\text{m}^3/\text{s}$  とする。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
宮川	岩出	8,400	800	7,600

出典：宮川水系河川整備基本方針

### (3) 時間雨量データによる確率からの検討

#### 1) 治水安全度の設定

宮川においては、全国的なバランス等から1/100について検討した。

#### 2) 降雨量の設定

降雨継続時間は、角屋の式等による洪水の到達時間、短時間雨量と洪水ピーク流量の相関、降雨強度の強い降雨の継続時間等に着目して12時間を採用した。

昭和33年～平成16年までの47年間の年最大12時間雨量を確率処理し、1/100確率規模の降雨量を基準地点岩出で381mmと決定した。

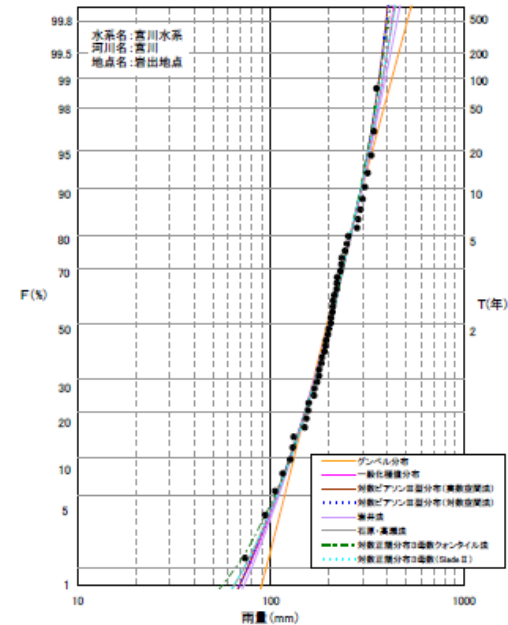


図4-5 岩出地点における雨量確率評価  
(昭和33年～平成16年：47ヵ年)

表4-2 1/100確率規模降雨量

	岩出	備考
1/100	381mm/12時間	確率手法 SLS00.04 以下 平均値

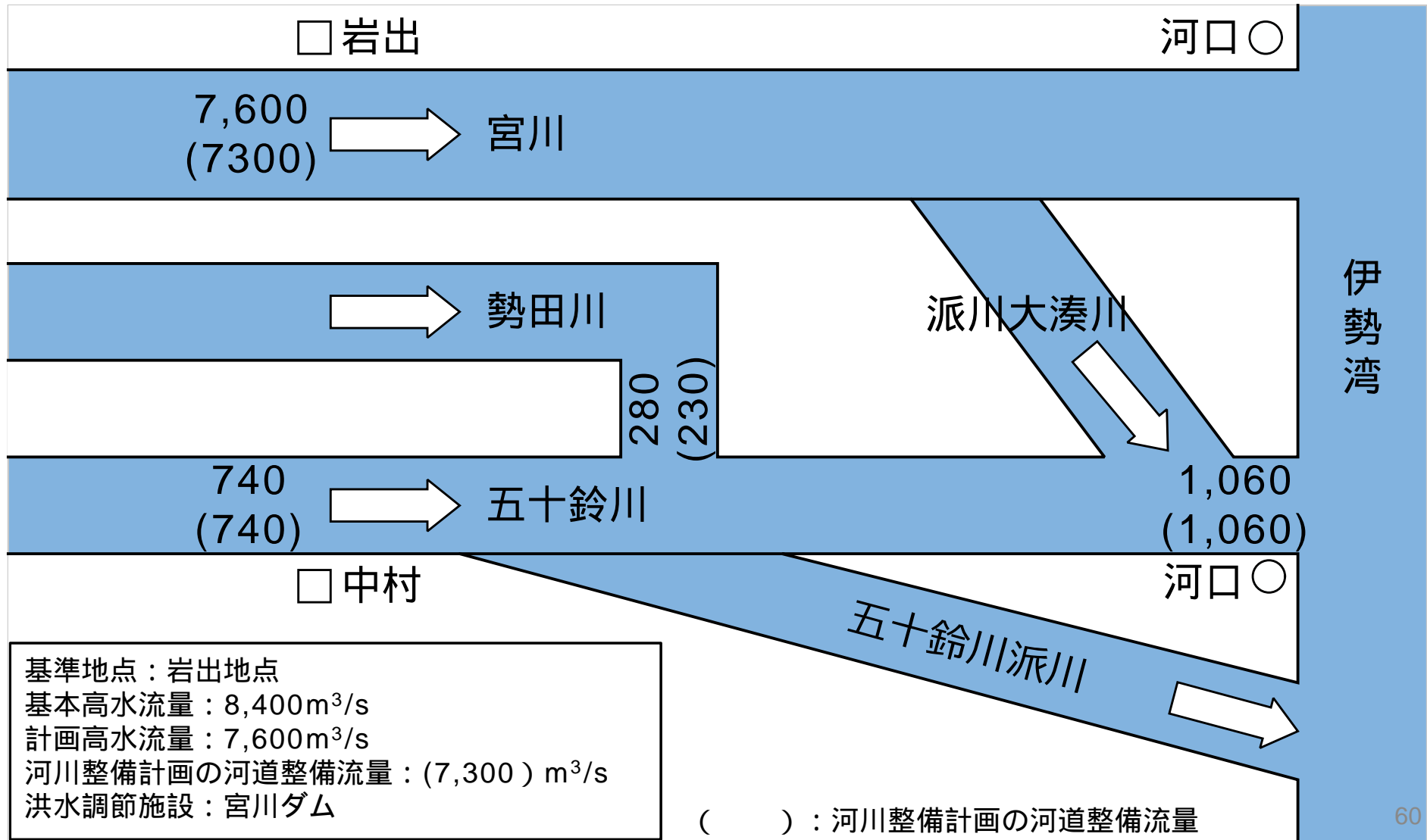
出典：国土交通省 水管理・国土保全局HP

[http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai\\_blog/shaseishin/kasenbunkakai/shouinkai/kihonhoushin/070711/070711-siryu.html](http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shaseishin/kasenbunkakai/shouinkai/kihonhoushin/070711/070711-siryu.html)

# 河川整備基本方針の概要



- 宮川直轄管理区間:宮川水系河川整備基本方針(平成19年11月)  
:宮川水系河川整備計画【大臣管理区間】(平成27年11月)





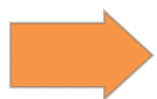


## 7 . 河川整備計画（原案）の概要

# 河川整備計画（原案）の概要（主な変更点）

- 整備対象河川は、河川整備の進捗、水害実績、改修効果を総合的に勘案し、現行河川整備計画(H29.3策定)対象河川に、近年で浸水規模が顕著に大きく、伊勢市との事業連携により効率的な整備が可能である汁谷川を選定する。

河川	近年災害		評価	選定
	年	浸水戸数		
五十鈴川	H22.10	30	現行整備計画対象河川	
大内山川	H23.9	111	現行整備計画対象河川	
桧尻川	H10.5	8	現行整備計画対象河川	
汁谷川	H29.10	205	H29.10浸水被害による緊急性を評価 伊勢市との事業連携による効率性を評価	



現行の整備計画河川の継続整備  
汁谷川の新規整備

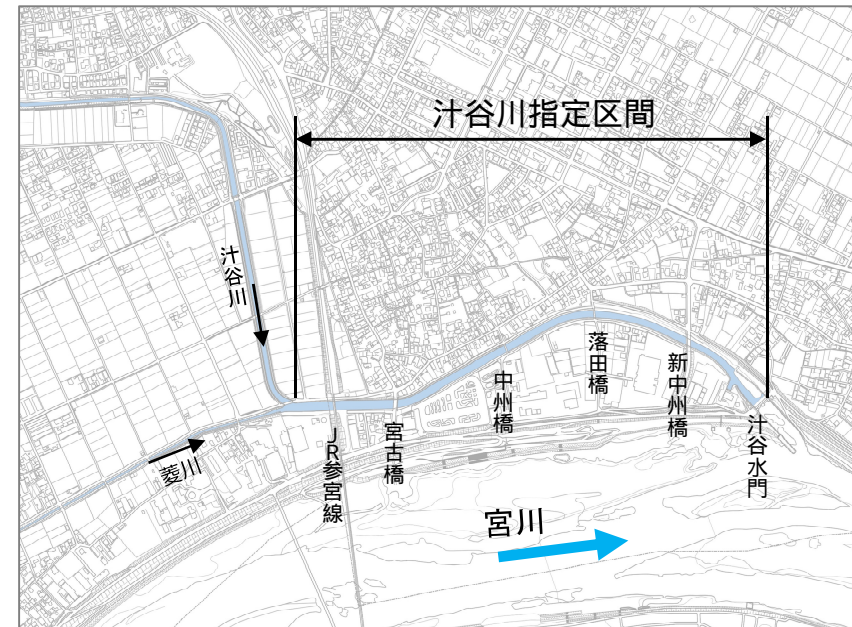
# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 【河川整備計画の対象区間】

### □ 汁谷川の県管理区間とする

河川名	区 間		流路延長 (km)	
	上 流 端	下 流 端		
汁谷川	左岸	伊勢市小俣町字 中ノ川原1435番 の2地先の町道橋	宮川への 合流点	1.160
	右岸			



## 【河川整備計画の対象期間】

- 宮川水系(指定区間)河川整備計画は、河川整備の当面の目標であり、その計画対象期間は**概ね30年間**とする。 現行整備計画と同じ
- 本整備計画は、現時点における流域及び河川の状況に基づき策定されたものであり、今後河川及び流域を取り巻く社会状況の変化などに合わせて、必要に応じて適宜見直しを行っていくものである。

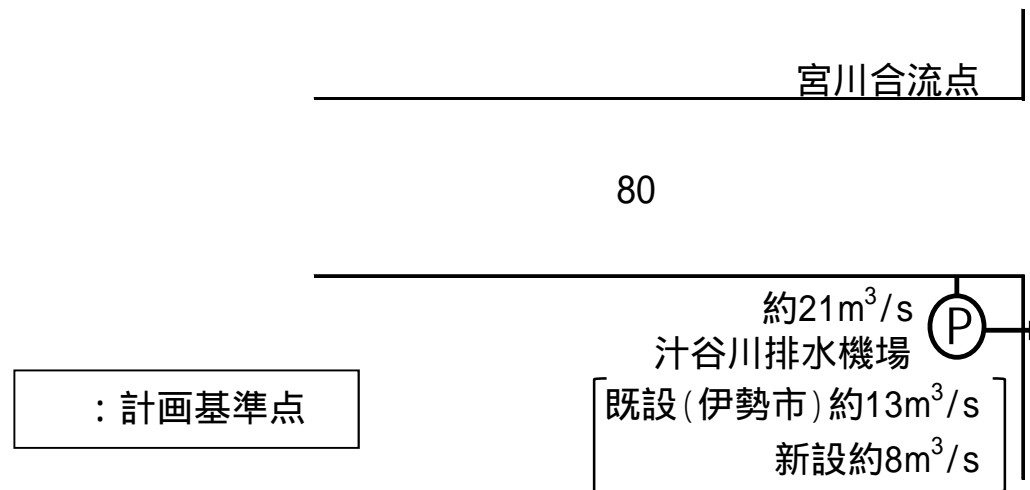


# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 【洪水・津波・高潮等による災害の防止または軽減に関する目標】

- （外水氾濫対策）本整備計画では、過去の流域内の浸水被害や県内他河川の治水安全度と流域内のバランス等を考慮し、年超過確率1/30の降雨に対して被害を防ぐことを目標とし、基準地点の宮川合流点において $80\text{m}^3/\text{s}$ の流量を安全に流下させる河道を整備する。
- （内水氾濫対策）宮川本川に対する内水氾濫については、伊勢市の下水道排水計画と整合を図り、年超過確率1/10の降雨に対して床上浸水を防ぐことを目標とし、汁谷川排水機場に約 $8\text{m}^3/\text{s}$ の排水ポンプを新設し、約 $13\text{m}^3/\text{s}$ の既存のポンプと合わせて約 $21\text{m}^3/\text{s}$ の排水能力とする。



# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



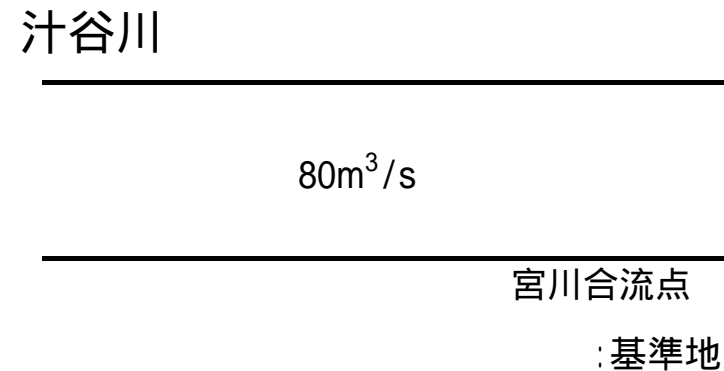
## 外水氾濫対策：計画高水流量

- 年超過確率1/30の規模の降雨による洪水を計画高水位以下で流下可能となる河道を設定した。

河川整備計画			
計画規模 <sup>(1)</sup>	1/30 確率	計画降雨	393.1mm/24時間
降雨波形	平成2年11月30日 洪水	流出計算手法	貯留関数法
基準地点	宮川合流点	基本高水流量	80 m <sup>3</sup> /s
洪水到達時間	2時間	降雨継続時間	24時間

(1) 計画規模は、同水系の他河川との整合を図り設定した。

河川名	計画規模	流域面積(km <sup>2</sup> )	流出計算手法
五十鈴川	1/50	70	合理式
桧尻川	1/30	5.16	貯留関数法
大内山川	1/30	134	合理式
横輪川	1/30	35.6	合理式

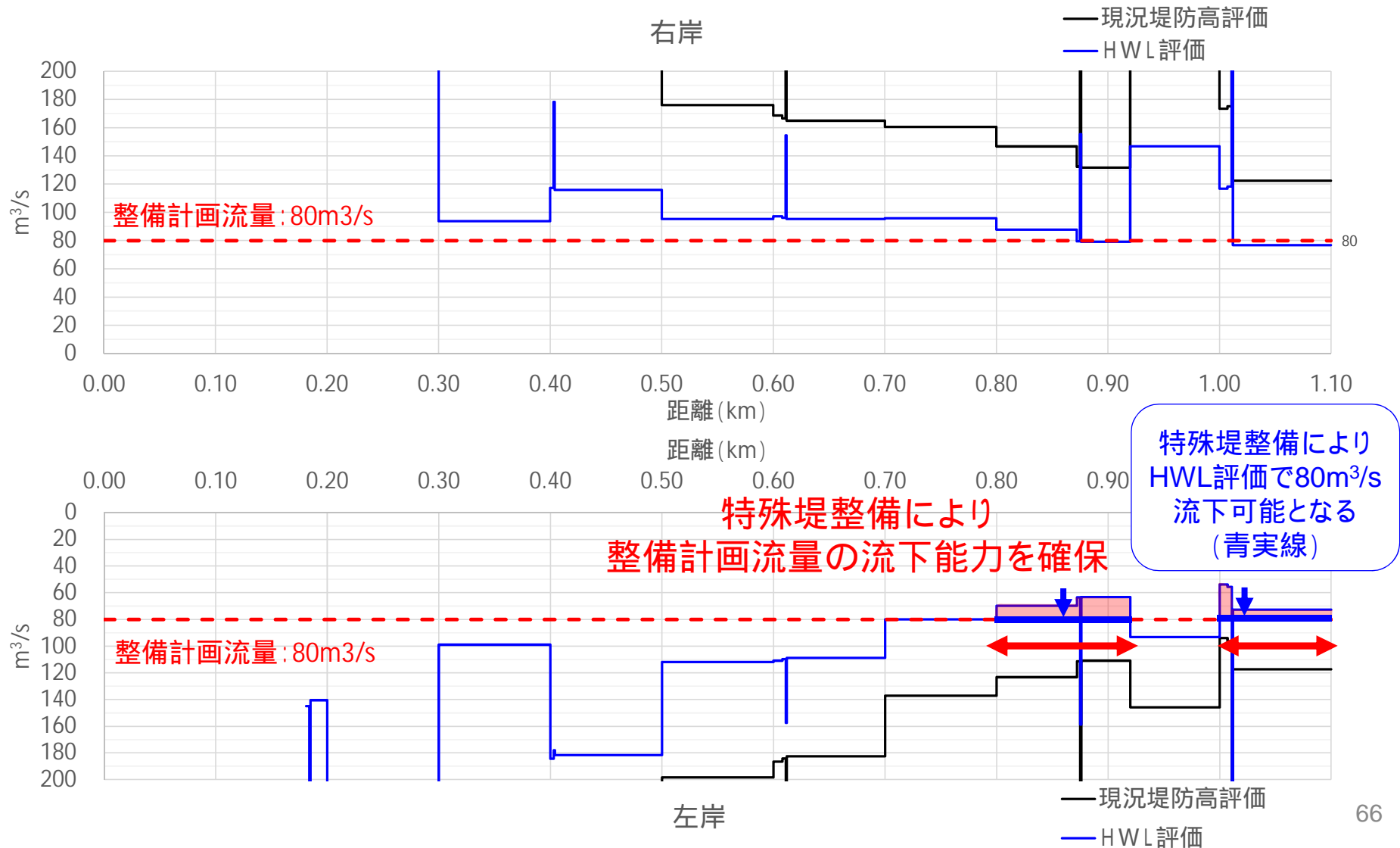


# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 外水氾濫対策：流下能力図

□ 築堤整備(特殊堤)により、整備計画規模(1/30)の流下能力が確保できる。



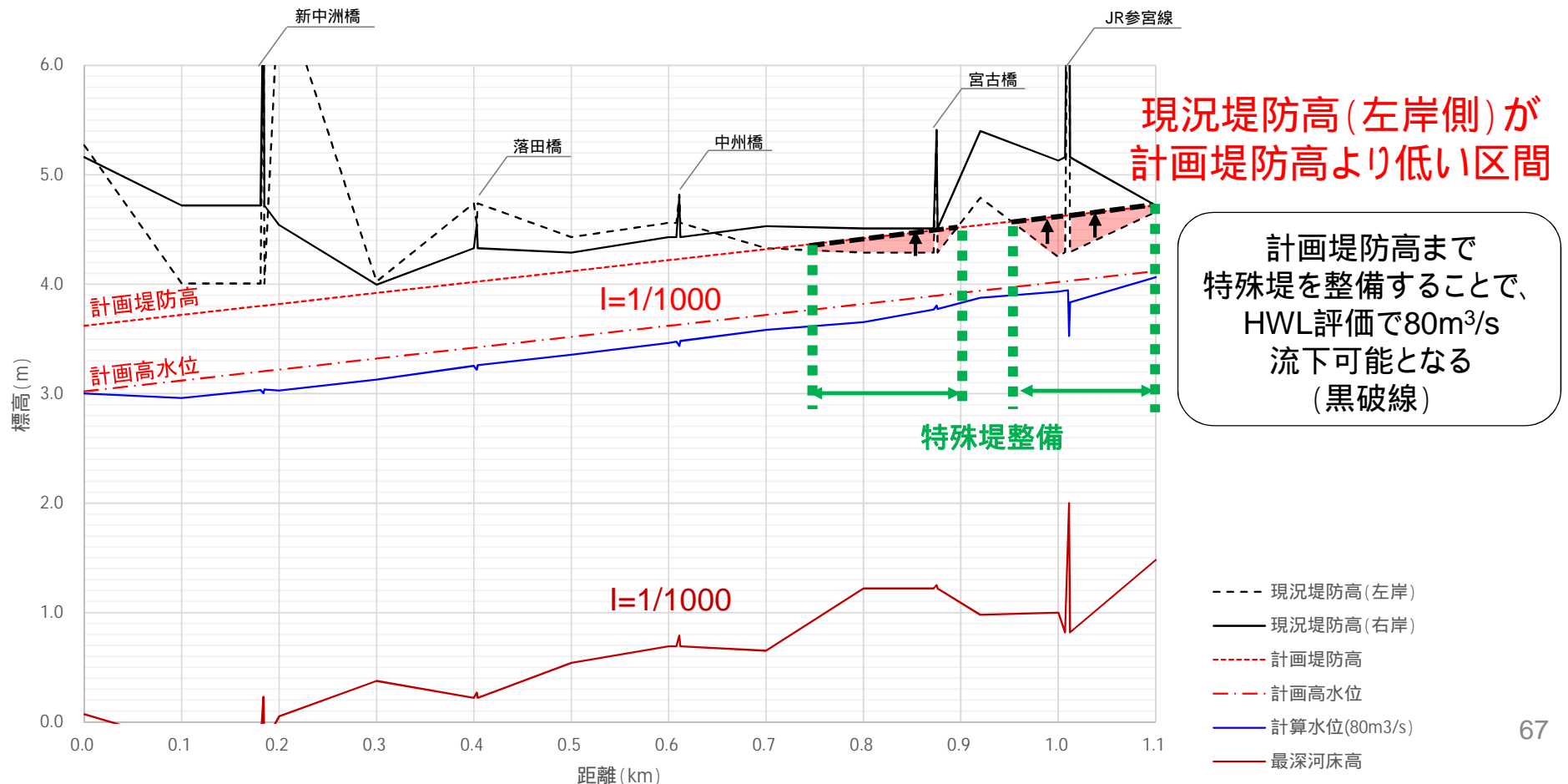


# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 外水氾濫対策：計画縦断面図

- 現況地盤高や河床勾配を考慮した上で、計画高水流量(80m<sup>3</sup>/s)を流下させた際の不等流計算水位を包絡するように、計画高水位及び計画堤防高を設定した。
- 築堤整備(特殊堤)を整備する区間としては、下図の計画縦断面図で堤防高が不足している、左岸側0.75～0.90、0.95～1.10km区間とする。



# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）

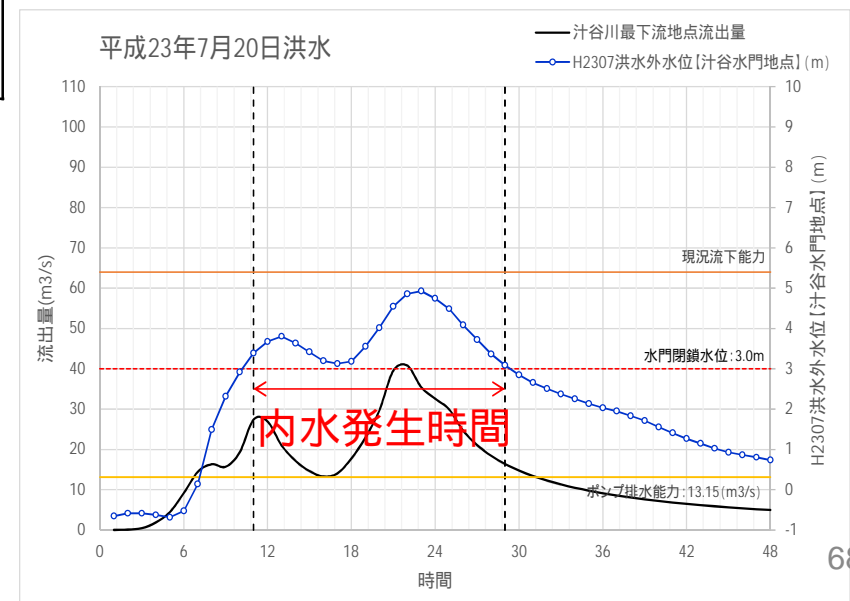


## 内水氾濫対策：検討対象内水

□ 年超過確率1/10年の洪水で床上浸水が解消となる内水対策を検討した。

検討対象内水			
計画規模 <sup>(1)</sup>	1/10 確率	計画降雨	294.8mm/24時間
降雨波形 <sup>(2)</sup>	中央集中型モデルハイト 平成23年7月20日洪水	流出計算手法	貯留関数法
内水発生時間 <sup>(3)</sup>	平成23年洪水：19時間	ピーク流量	中央集中：60m <sup>3</sup> /s 平成23年洪水：43m <sup>3</sup> /s
現況ポンプ規模	13.15m <sup>3</sup> /s		

- (1) 計画規模は、伊勢市の排水計画規模 (W=1/10) との整合を図り設定した。
- (2) ピーク流量が最も大きい洪水と内水発生時間が最も長い洪水を選定した。
- (3) 内水発生時間とは、汁谷水門が閉門している時間 (宮川からみての内水が発生している状況) を示す。



# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 内水氾濫対策：内水処理施設計画

□ 汁谷川流域で考えられる内水氾濫対策の整備項目のうち以下の項目で比較検討を行った。

排水ポンプの新設

遊水地の整備

水門の改築(操作ルールの変更)

放水路の整備

□ 整備費用や浸水軽減効果から、排水ポンプを約21m<sup>3</sup>/s(約8m<sup>3</sup>/s新設)とすることを汁谷川流域の内水氾濫対策整備項目とした。

<p>ポンプ新設</p>	<p>ポンプ新設・水門閉鎖水位の変更</p>	<p>遊水地設置 (約30万m<sup>3</sup>)</p>	<p>放水路設置</p>
<p>ポンプ：約21m<sup>3</sup>/s(約8m<sup>3</sup>/s新設)</p>	<p>水門閉鎖水位を2.0mに変更</p>	<p>遊水地設置 (約30万m<sup>3</sup>)</p>	<p>放水路設置</p>
<p>10m<sup>3</sup>/s未満のポンプ新設で対応可能である</p>	<p>波形によって全く効果がない 水門閉鎖頻度が多くなる</p>	<p>降雨波形によって効果がでない 広大な面積が必要となる(約15万m<sup>2</sup>) 農業振興地域であるため、地元の理解が得られない</p>	<p>普通河川区間に整備が必要 新規に水路を整備する必要がある 影響家屋数が多い。</p>
<p>約17億円</p>	<p>—</p>	<p>約40億円</p>	<p>約21億円</p>
<p>○</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>69</p>



# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## 【河川整備の実施に関する事項】

### □ 河川工事の目的

- (外水氾濫対策) 河川工事の目的は、洪水時の河川水位を低下させ、整備計画流量を安全に流下させることを目的として、河床掘削及び引堤等により河積を増大し、護岸等により堤防を保護することにより洪水被害の防止を図る。
- (内水氾濫対策) 合流先河川の内水の影響を受ける場合には、関係機関と連携し、必要に応じて排水ポンプ等の整備により家屋の浸水被害の防止または軽減を図る。

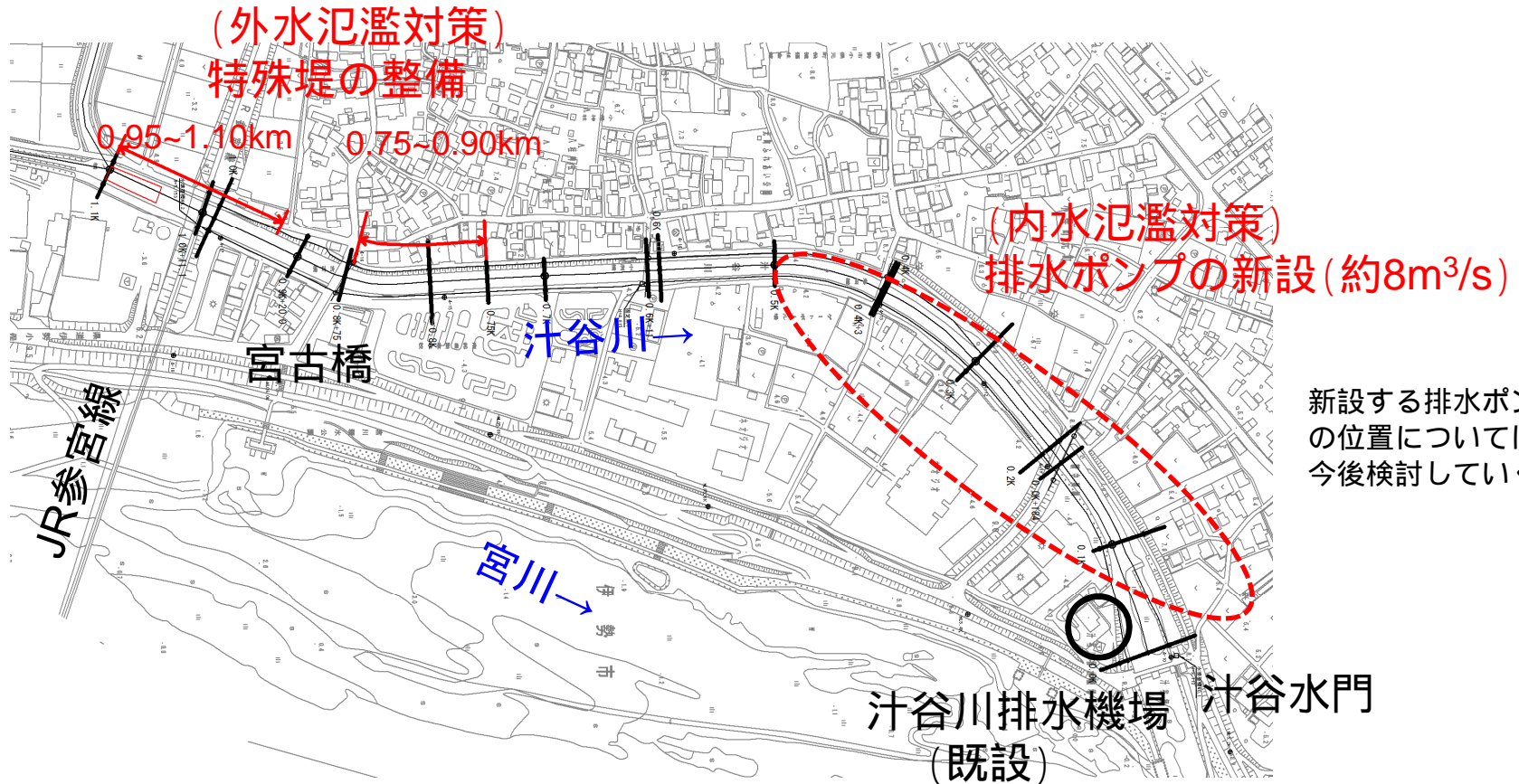
### □ 河川工事の箇所と主な工事内容

河川名	工事区間	主な工事内容
汁谷川	0.75 ~ 0.90km、0.95 ~ 1.10km	・築堤(特殊堤)
	宮川合流点付近	・排水ポンプの新設

# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）



## □ 整備箇所・整備メニュー

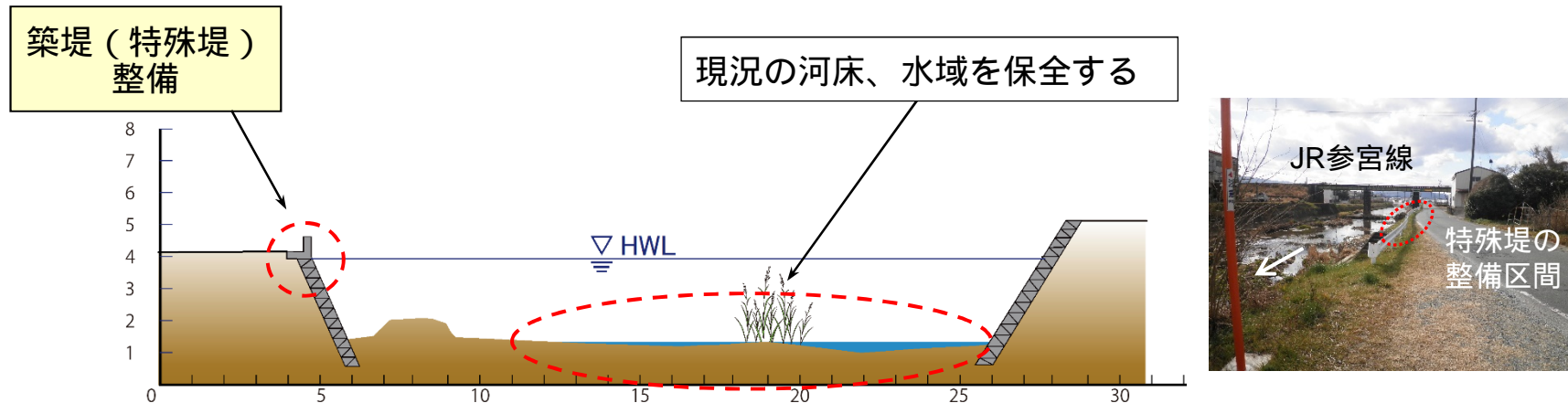


# 河川整備計画（原案）の概要（汁谷川）

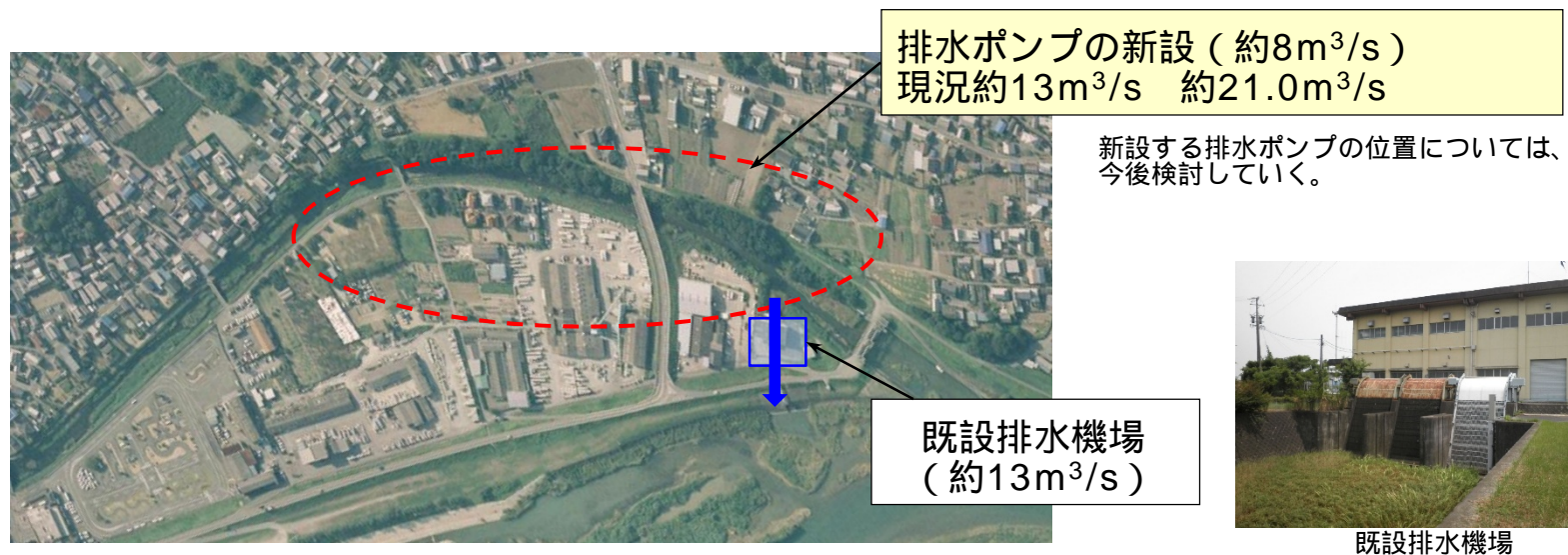


## □ 主要工事の概要

- ・外水氾濫対策：築堤（特殊堤）整備により流下能力向上を図る（1.0k地点）



- ・内水氾濫対策：排水ポンプの新設により浸水被害の軽減を図る。







## 【河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】

- 汁谷川の河川の適正な利用については、今後とも関係機関との連携のもと、適切な水利用が図られるように努めるとともに、綿密な情報提供等、水利用の効率化を促進し、さらに既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境が維持・改善されることを目標とする。
- 流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後も流況の把握を行うとともに取水実態や動植物の生息・生育・繁殖環境等の調査を行い、設定に努める。



## 【河川環境の整備と保全に関する目標】

- 河川環境の整備と保全に関しては、流域内河川の自然環境及び河川利用の実態把握に努め、治水・利水面との調和を図りつつ、河川が本来有する動植物の生息・生育・繁殖環境の保全と整備に努める。
- 河川改修等に伴う環境変化により、外来生物の生息域が拡大し、在来種の生息・生育・繁殖環境に影響を与えることが無いように配慮するとともに、関係機関と連携して外来生物の移入回避等にも努める。
- 汁谷川は、段丘崖に見られる河畔林や河道内の植生等の良好な水辺環境の保全に努める。



## 【河川の維持の目的、種類及び施工場所】

### □ 河道及び河川管理施設の維持

- 河川内に堆積した土砂等が洪水の流下を阻害する恐れがある場合には、必要に応じて土砂を撤去し河積を確保するものとする。
- 土砂の撤去の際には、平坦な河床としないなど自然環境への配慮を行う。
- 定期点検により法崩れ、ひび割れ、漏水、沈下等の異常が無いかを確認する。異常が確認された場合には、必要な対策を実施し堤体の機能維持に努める。
- 河川管理施設の維持については、洪水、高潮、津波等の際、必要な機能が発揮されるよう、適切に点検、巡視等を行い、必要に応じて補修・更新を行うとともに予防保全が必要な施設については、計画的に修繕・更新に努める。





## 【河川の維持の目的、種類及び施工場所】

### □ 水量の監視等

- 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全及び利水の安定的な取水に必要な流量の確保を目指し、水量の監視を行う。
- 関係機関との連携・協力のもと、適切な水利用の促進を図るとともに渇水時の情報伝達体制の整備、綿密な情報提供等水利用の効率化に努める。

### □ 水質の保全

- 水質保全については、流域の市町等関係機関との連絡・調整や流域住民との連携・協働を図りながらより一層の水質改善に努める。

### □ 河川環境の適正な利用と管理

- 植生に関しては河畔林等の良好な自然が残されていることから、保全に努める。
- 魚類等の水生生物への配慮として、河川・水域の連続性の確保に努める。

# 河川整備計画（原案）の概要（宮川水系）



## 【その他河川整備を総合的に進めるために必要な事項】

### □ 整備途上段階および超過洪水への対策

- 計画規模を上回る洪水や整備途上段階における洪水による被害を最小限に抑えるよう、ソフト対策として、水位情報の提供、洪水浸水想定区域図の作成等、市町が取り組む洪水ハザードマップ作成の支援を行い、総合的な被害軽減対策を流域の市町等関係機関や地域住民と連携して推進する。
- 内水被害の著しい地域においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、必要に応じて内水被害の軽減対策を実施する。
- 情報伝達及び警戒避難体制の整備を行うとともに、住民の防災訓練の参加等により、災害時のみならず平常時から防災意識向上や水防活動の充実に努める。

# 河川整備計画（原案）の概要（宮川水系）



## 【その他河川整備を総合的に進めるために必要な事項】

- 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項
  - 流域住民等の地域関係者との「協働」を進め、河川に関する各種情報の提供や地域関係者との意思疎通に努める。
  - 河川管理者、地域の住民や学校、企業、団体等の各主体がそれぞれの担うべき役割を認識し、その役割を果たしつつ、相互の連携に努める。
  
- 宮川流域ルネッサンスとの連携
  - 宮川流域に関する災害の発生防止又は軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全、維持管理にあたっては、宮川流域ルネッサンス協議会の取組と必要に応じて連携し、取り組んでいく。
  
- 勢田川流域等浸水対策協議会との連携
  - 桧尻川、汁谷川の浸水被害の軽減に向けた河川整備やソフト対策にあたっては、勢田川流域等浸水対策協議会と連携し、取り組んでいく。





## 8 . 今後の予定

# 今後の進め方

